

烏帽子会会報

2021年秋号 Vol.71

第39回・40回合同 福岡大学医学部 同窓会
烏帽子会 総会・講演会



研究奨励賞
受賞者



FU-OMSA
受賞者



後列 FU-OMSA賞状とタイバー
前列 研究奨励賞賞状

福岡大学医学部同窓会

目 次

・ 医学部・病院首脳人事	3
・ 会長挨拶	高 木 忠 博 3
・ 総会報告	安 野 哲 彦 4
・ 研究奨励賞	
令和3年度 研究奨励賞選考報告	安 元 佐 和 6
令和3年度 研究奨励賞受賞者名簿	7
・ 令和3年度 受賞論文抄録	
Magnetic Resonance Imaging Assessment of Abductor Muscles Shortly After Curved Periacetabular Osteotomy (論文)	松 永 大 樹 7
Meta-iodobenzylguanidine myocardial scintigraphy in Perry disease (論文)	三 嶋 崇 靖 8
Genetic knockout and pharmacologic inhibition of NCX1 attenuate hypoxia-induced pulmonary arterial hypertension (論文)	永 田 旭 8
Ubiquitin-specific peptidase 6 (USP6)-associated fibroblastic/ myofibroblastic tumors: evolving concepts.n (論文)	中 山 鎮 秀 9
改良型 HDL 模倣ペプチド (改良型 FAMP) による抗動脈硬化作用、 血管内皮障害抑制作用とそれら機序に関する検討 (計画)	森 田 英 剛 9
・ 令和4年度研究奨励賞募集要項／在外研修援助金募集要項	10
・ FU-OMSA 賞状・タイバー授与	11
・ 総会報告 (総会風景／受賞者)	14
・ 教授就任挨拶	
教授就任の御挨拶	重 森 裕 16
教授就任のご挨拶	高 木 誠 司 17
教授就任のご挨拶	白 石 武 史 18
・ 令和2年度 評議員会	19
・ 学会報告	
第111回消化器内視鏡学会九州支部例会を終えて	平 井 郁 仁 23
日本泌尿器科学会福岡地方会第308回例会開催報告	羽 賀 宣 博 24
第6回腎移植内科研究会学術集会一開催報告	升 谷 耕 介 25
・ 教室紹介	
整形外科学講座	山 本 卓 明 26
眼科学講座	原 田 一 宏 27
産婦人科教室	倉 員 正 光 28
麻酔科学講座	秋 吉 浩 三 郎 29
・ 会員寄稿	
第30回日本乳癌画像研究会開催	渡 邊 良 二 30
・ キャンパスだより	
烏帽子会賞授与	小 玉 正 太 32
・ 訃報	
奥村 恂 先生の思い出	山 寄 節 33
小金丸史隆先生を偲んで	入 江 勝 一 35
我が青春の友 久保次郎	岩 井 憲 見 36
福岡大学心臓血管外科 教授 木村道生先生を偲んで	岩 隈 昭 夫 37
・ 医学部同窓会諸表	38
・ 医局長・医長名簿	40
・ 教育職員人事／慰霊祭報告／編集後記	41

同窓会ホームページ共通 ID、パスワード

ID : eboshikai
パスワード : fukudai1 (数字)

パニックマニュアル専用パスワード

panic



ホームページ用二次元
バーコード

医学部・病院首脳人事

医学部・病院首脳人事

(関係分抜粹就任は 12 月 1 日)

医学部長	小 玉 正 太	(13 回生 再任)
大学院研究科長	松 永 彰	(3 回生 再任)
福岡大学病院長	岩 崎 昭 憲	(5 回生 再任)
福岡大学筑紫病院長	河 村 彰	(17 回生 新任)
福岡大学西新病院長	三 浦 伸一郎	(11 回生 再任)
研究推進部長	野 田 慶 太	(6 回生 再任)

会長挨拶

No 1

烏帽子会 会長 高 木 忠 博 (1 回生 脳神経外科クリニック高木 院長)



今回、我々医学部 50 年の歴史の流れの中で、烏帽子会の成長を最も表現出来る機会が来たのではないかと思います。今まで、臨床・教育・研究を何とか自給自足出来る大学を目指し卒業生全員で努力して来ました。その努力も確実に実り、大学、学部運営に係わる全ての要職に卒業生が就任しています。福大 85 年の歴史上初めての快挙を成し遂げましたが、これにもう一つ「経済力」が加われば理想的な学部が福岡大学に誕生することになると思います。その歴史の先鞭を医学部がつけたいと思うのです。その経済力の一旦に「寄付活動」があると思います。「大学寄付」という言葉には大きく 2 つの気持ちが入っ

ていると思います。それは「母校愛」と「期待感」ではないでしょうか。母校愛には、自分は「この大学の出身者である。」という「自負」が必須と思います。それに母校の成熟、発展が加わればこの「自負」が一層強くなります。医学部は 50 年着実に成熟発展し、我々には強い結束が生まれました。「後輩の成長、成功の充実」は全員が思っている事と思います。また、「期待感」は、自分の愛する母校へ我が子を入学させたいという気持ちです。少しでも優先権があれば期待感を持つのが心情と思います。純粋な「公」的と「私」的を両立させることが私立大学らしい「大学寄付」ではないかと思います。

今回、大学病院建設が計画されました。大学から寄付活動が行われると思いますが、医学部が 1. 臨床 2. 教育 3. 研究 4. 運営 5. 経済力を自給自足で達成した福大で最初の No 1 学部の姿を提示したいと思いませんか? 飛躍の年にしたいと思います。頑張りましょう。

● 福岡大学医学部同窓会名簿第 12 号について ●

名簿第 12 号の発行を 2022 年 3 月としておりましたが、事情により 2022 年 6 月とさせていただきます。2022 年 4 月より異動される先生、住所等の変更が生じた先生は、maileboshi@gmail.com までお知らせいただきますようお願いいたします。

総会報告

第39回・40回合同烏帽子会総会報告

第40回烏帽子会総会理事 安野哲彦 (24回生)

令和3年7月3日に第39・40回烏帽子会総会を開催しました。コロナ禍で第39回の総会が延期となっており、今回は23回生と協力して合同開催となりました。会場とWebでのハイブリッドでの開催となりましたが、会場は50名程度、WEBで100名程度の参加者でした。

今回は、総会に引き続き、昨年の表彰者を含めた研究奨励賞と4年生で優秀な学生を表彰するFU-OMSAの表彰式を行いました。

ご挨拶では学長の朔啓二郎先生、医学部長の小玉正太先生、病院長の岩崎昭憲先生をお招きしました。同窓生から全ての要職に就かれており、各先生方から今後の福岡大学の進むべき方向性を示して頂きました。

講演会では、23回生の宮岡正喜先生からは、「当科における早期胃癌内視鏡診断」について筑紫病院で取り組まれている最新の治療について提示し

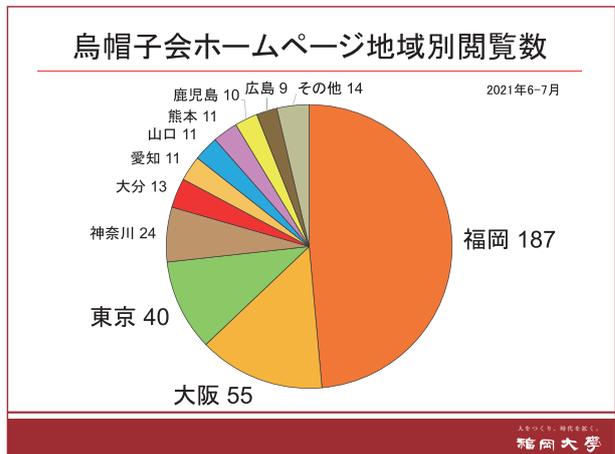
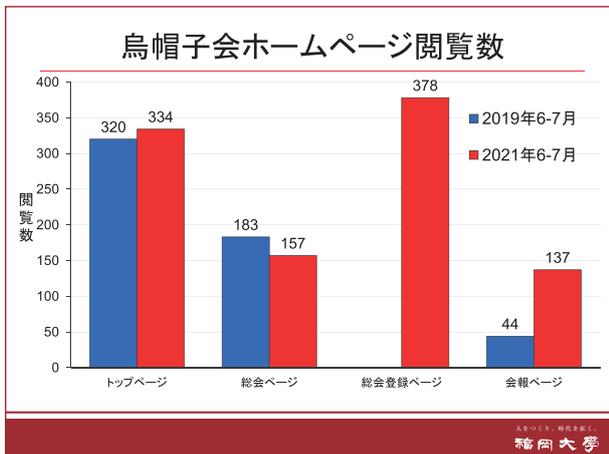
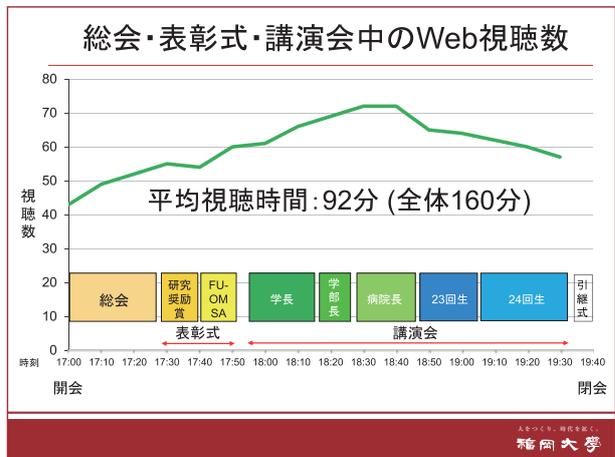
て頂きました。次に、鹿児島県指宿市で開業している24回生の竹元隆英先生から「ギャンブル依存症の実態と治療」について、非常に分かり易く発表して頂きました。

今回、14回生の先輩方からの寄付やご支援を頂き、感謝と同時に10年後担当される34回生の後輩にもつなげていきたいと考えています。

感染症対策に配慮しながらの異例づくしのWEBでの開催となりましたが、表彰式、講演会など現在できることを可能な限り行いました。世の中の情勢をみながら開催するかどうかを判断することとなり、皆様への総会のご案内が遅れてしまいましたことをご詫びします。総会が無事終了しましたことをご報告すると共に、この場をお借りして関係者の皆様へ心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

第39・40回合同 烏帽子会総会 Web配信結果

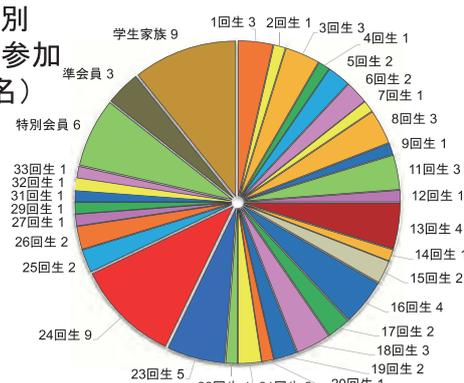




Web総会参加人数

	人数
Web登録	123
幹事へのメッセージ(登録時)	30
Web参加(延べ数)	87
Web参加同時最大数	63
Web終了後アンケート	16
(現地会場参加)	(56)

人とつくり、時代を拓く。
福岡大学

学年別
Web参加
(87名)

人とつくり、時代を拓く。
福岡大学

Web総会終了後アンケート(1)

- ・非常に役に立つ講演が聞けました。ありがとうございました。
- ・宮岡先生と竹元先生の講演は非常に勉強になりました。
- ・初めての参加でしたが、式次第(授賞式)を経験するとともに、学長、学部長、病院長の心強いメッセージを拝見することができ、またご講演では内視鏡診断の進歩とギャンブル依存性の実像に触れることができ大変有意義でした。
- ・コロナ禍の中準備が大変だったかと思いますが有意義な会をありがとうございました。
- ・福岡大学病院新病院には大いに期待しています。コロナ禍での医療機関も経営が大変だと思います。その中でも新病院への寄付は重要です。寄付に賛同するOB・OGへの感謝の気持ちを如何に表すか大いに検討して頂き、各位が奮って協賛できるようにお取り計らいください。
- ・朔学長を中心に 福岡大学が更なる発展のために 我々OBの支援が大事だと痛感。新病院構想も知れて安心しました。
- ・久しぶりに同窓会に参加しました。
- ・来年以降も毎年、参加したい。

人とつくり、時代を拓く。
福岡大学

Web総会終了後アンケート(2)

- ・Covid-19 感染のなか、新しい取り組みで同窓会を行って頂きありがとうございました。来年以降で、是非以前のように参集しての会が出来る日を祈念します。
- ・Web形式という特殊な形式での開催にもかかわらず、円滑に遂行され、無事の終了、お疲れ様。
- ・初めてのWebによる総会としては上々。
- ・タイムテーブルが想像以上に早く進んでいたが、ギャンブル依存の話が聞けて勉強になった。来年はわからないが、ハイブリッドでしていただけると嬉しい。
- ・CORONA 禍、会場に行けなかったが、このようなWEB配信、これからも必要。
- ・懐かしい顔を拝見することができてとても嬉しく思う。大学を離れて長くなりますが、こんなに素晴らしい良い大学環境へと変化していることを知れて感動感激。自分達の幹事の時に、ウェブ配信があっただけで子育てしている私も参加できたかなと拝見した。今後もこのような形で配信していただけるなら、参加できないメンバーや遠くにいるメンバーも楽しみにできる。
- ・運営ご苦労様でした。他の会議があり、一部しか参加できず申し訳ありません。

人とつくり、時代を拓く。
福岡大学

研究奨励賞

令和3年度研究奨励賞選考報告

選考委員長 安元佐和 (7回生)

本年度は11件の論文と1件の研究計画の応募がありました。全ての研究論文を同窓教授にして査読いただき順位づけを依頼後、令和3年6月9日にメディカルホールで選考会議を開催しました。厳正なる選考結果、以下の5名の方が受賞されました。来年度も奮ってご応募下さい。

・最優秀論文賞

整形外科 松永 大樹 (33回生)

「Magnetic Resonance Imaging Assessment of Abductor Muscles Shortly After Curved. Periacetabular Osteotomy. J Arthroplasty(2021, 36: 429-433)」

・優秀賞

脳神経内科 三嶋 崇靖 (31回生)

「Meta-iodobenzylguanidine myocardial scintigraphy in Perry disease. Park. Relat. Disord.(2021, 83: 49-53)」

・優秀賞

筑紫病院 呼吸器・乳腺外科 永田 旭 (32回)

「Genetic knockout and pharmacologic of inhibition of NCX1 attenuate hypoxia-induced pulmonary arterial hypertension. Biochemical and Biophysical Research Communications.(2020, 529: 793-8)」

・優秀賞

整形外科 中山 鎮秀 (準会員)

「Ubiquitin-specific Peptidase 6 (*USP6*)-associated Fibroblastic/Myofibroblastic Tumors: Evolving Concepts. Cancer Genomics Proteomics.(2021, 18: 93-101)」

・奨励賞

心臓・血管内科 森田 英剛 (準会員)

研究計画 「改良型 HDL 模倣ペプチド(改良型 FAMP)による抗動脈硬化作用、血管内科皮膚障害抑制作用とそれら機序する検討」

* R3.7.3 総会にて表彰を行い、昨年賞状の授与が出来なかった R2 年度受賞者 3 名へも授与した。



● 令和3年度 研究奨励賞受賞者名簿 ●

福岡大学医学部 整形外科 福大助教 松 永 大 樹 (正会員 / 33 回生)	Magnetic Resonance Imaging Assessment of Abductor Muscles Shortly After Curved Periacetabular Osteotomy (論文)
福岡大学病院 脳神経内科 福大講師 三 嶋 崇 靖 (正会員 / 31 回生)	Meta-iodobenzylguanidine myocardial scintigraphy in Perry disease (論文)
福岡大学筑紫病院 呼吸器・乳腺外科 福大助教 永 田 旭 (正会員 / 32 回生)	Genetic knockout and pharmacologic inhibition of NCX1 attenuate hypoxia-induced pulmonary arterial hypertension (論文)
福岡大学医学部 整形外科 福大助教 中 山 鎮 秀 (準会員)	Ubiquitin-specific Peptidase 6 (<i>USP6</i>)-associated Fibroblastic/Myofibroblastic Tumors: Evolving Concepts (論文)
福岡大学医学部 心臓・血管内科学 福大助手 森 田 英 剛 (準会員)	改良型 HDL 模倣ペプチド (改良型 FAMP) による抗動脈硬化作用、血管内皮障害抑制作用とそれら機序に関する検討 (計画)

令和3年度 受賞論文抄録

Magnetic Resonance Imaging Assessment of Abductor Muscles Shortly After Curved Periacetabular Osteotomy (論文)

福岡大学医学部 整形外科 松 永 大 樹 (33 回生)



【目的】白蓋形成不全症は二次性変形性股関節症の原因になると知られており、関節温存手術として様々な寛骨臼骨切り術が行われている。当院ではCPO (Curved Periacetabular Osteotomy) を行なっており、前方アプローチを用い

ることで外転筋への影響が最小限であると考えられている。本研究の目的は、CPO 後の外転筋の状態と臨床的影響について評価することである。

【方法】当院でCPOを行った38関節を対象とし、術後1週と3か月でMRI検査を行い、外転筋の状態を評価し(Grade 0(normal)、I (strain/edema)、II (partial tear)、III (complete tear))、臨床評価項目として年齢、

BMI、臨床スコアを調査した。

【結果】術後1週において、中殿筋は84.2%で異常を示さなかった。小殿筋はGrade Iは55.3%、Grade IIは44.7%を認めた。術後3か月において、大殿筋と中殿筋は全例で異常を認めず、小殿筋は47.4%でGrade Iの変化を認めた。いずれも年齢、BMI、臨床スコアに有意差は認めなかった。

【結論】術後3か月後では、小殿筋でのみ47.4%の症例で異常を示したが、これらの外転筋の異常は、術後の臨床スコアに影響はなく、CPOが外転筋に与える影響が最小限であり、術後の機能回復を有利にすると考ええる。

最後に、ご指導いただきました、山本卓明教授をはじめ、多くの先生方に感謝申し上げます。

Meta-iodobenzylguanidine myocardial scintigraphy in Perry disease (論文)

福岡大学病院 脳神経内科 三嶋 崇 靖 (31 回生)



【目的】

Perry 病 (Perry 症候群) はパーキンソニズム、うつ・アパシー、原因不明の体重減少、中枢性呼吸障害の 4 徴候を特徴とする常染色体優性遺伝の神経変性疾患である。Perry 病は DCTN1 遺伝子変異が原因であり、病理学的には筋萎縮性側索硬化症などと同様に TAR DNA-binding protein 43 (TDP-43) プロテインパチーに分類される。我々は Perry 病の国際診断基準を作成し、Perry 症候群から Perry 病への名称変更を提唱した。また、L-dopa やドパミンアゴニスト投与後に衝動制御障害がみられることなど Parkinson 病との類似性についても報告してきた。本邦においては我々が報告した 3 家系のみであり、本研究の目的は本邦の新たな Perry 病家系を発見し、Perry 病家系の臨床的多様性、特に Parkinson 病で特徴的とされる MIBG 心筋シンチグラフィの取り込み低下の有無について明らかにすることである。

【方法】

2010 年 1 月から 2018 年 12 月までに本邦の脳神経内科外来を受診し、Perry 病が疑われる日本人患者を対

象とした多施設共同研究である。サンガー法によるシーケンスを用いて各患者の DNA を DCTN1 変異についてスクリーニングした。また、各症例における臨床症状や MIBG 心筋シンチグラフィを含む画像所見について検討した。

【結果】

新たな 2 家系の存在が確認され、2 家系の新規遺伝子変異はそれぞれ p.K68E、p.G71V であり、発症者は Perry 病の診断基準を満たしていた。1 症例では、過去の我々の報告と同様に L-dopa やドパミンアゴニスト投与後に衝動制御障害がみられた。10 症例で MIBG 心筋シンチグラフィが施行され、8 症例 (80%) で取り込みが低下し、便秘や排尿障害、起立性低血圧などが合併していた。

【結論】

我々は Perry 病家系が本邦に 5 家系存在することを明らかにした。また、Perry 病では高頻度に MIBG 心筋シンチグラフィ取り込み低下を認め、同疾患の自律神経障害の生物学的マーカーになりうることを明らかにした。追証／三嶋先生は令和 3 年度第 23 回医学会賞金賞も受賞されました。

Genetic knockout and pharmacologic inhibition of NCX1 attenuate hypoxia-induced pulmonary arterial hypertension (論文)

福岡大学筑紫病院 呼吸器・乳腺外科 永田 旭 (32 回生)



1 型 Na⁺-Ca²⁺ 交換体 (NCX1) は細胞膜の膜電位並びに Na⁺-Ca²⁺ 濃度勾配によって制御される双方向性のトランスポーターである。血管平滑筋の NCX1 は細胞内 Ca²⁺ ホメオスタシスならびに Ca²⁺ シグナリングにおいて重要な役割を担っている。我々は 10% の低酸素環境で 4 週間飼育されたマウスの肺動脈において NCX1 がアップレギュレーションしていることを見出した。そこで、低酸素誘発肺動脈性肺高血圧症において NCX1 がどのような病態生理学的役割を果たしているのか、NCX1 の発現量を

およそ半分程度まで減少させた NCX1 ヘテロノックアウトマウス (NCX1^{+/-} マウス) ならびに特異的 NCX1 阻害剤である SEA400 を用いて検討した。NCX1^{+/-} マウスは野生型マウスと比較して、低酸素誘発肺動脈性肺高血圧症ならびに右室肥大の両者において病態の軽減を示した。さらに、野生型マウスへの SEA400 の浸透圧ポンプを用いた 4 週間持続投与 (0.5mg/kg/日) は低酸素誘発肺動脈性肺高血圧ならびに肺血管の筋性を有意に抑制し、右室肥大もわずかに低減した。これらの知見は、NCX1 のアップレギュレーションが低酸素誘発肺動脈性肺高血圧症の病態形成に寄与していることを示しており、NCX1 の抑制が肺動脈性肺高血圧症の新たな治療アプローチとなりうることを示唆される。

Ubiquitin-specific peptidase 6 (*USP6*)-associated fibroblastic/myofibroblastic tumors: evolving concepts. (論文)

福岡大学医学部 整形外科学 中山 鎮 秀 (準会員)



USP6 関連線維芽細胞 / 筋線維芽細胞腫瘍は時に肉腫と誤診され不要な積極的治療を受けることがある。結節性筋膜炎は偽肉腫性筋膜炎と別称され急速な増大、高い細胞密度や核分裂数を示すことから浸潤性軟部肉腫との鑑別に注意を要する。富細胞性腱鞘線維腫は、組織学的に低悪性度の線維性肉腫と類似している。骨化性筋炎や線維骨性偽腫瘍も初期に急速な増大を示し、紡錘形細胞が密に増殖し核分裂像も多く、骨外性骨肉腫などの鑑別が問題となる。鑑別の対象となる肉腫では USP6 遺伝子の再構成は認められず、USP6 遺伝子再構成ある

いは USP6 融合遺伝子の検出が診断に有用である。当院ではパラフィン包埋材料を用いた FISH 解析での USP6 遺伝子再構成の検出を行っており診断の確定に寄与している。

USP6 関連線維芽細胞 / 筋線維芽細胞腫瘍はその多くが self-limited な経過をとるため経過観察を含む保存的治療の適応となることが多い。有症状腫瘍に対する切除も辺縁切除で十分である。

USP6 の融合パートナー遺伝子は USP6 の転写活性化に関連するプロモーターとして機能し、近年数多く報告されている。融合パートナー遺伝子が形態学的特徴や自然消退のメカニズムにどのような関連性をもつかについては今後更なる検討が必要である。

改良型 HDL 模倣ペプチド(改良型 FAMP)による抗動脈硬化作用、血管内皮障害抑制作用とそれら機序に関する検討(計画)

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 森田 英 剛 (準会員)



福岡大学医学部 心臓・血管内科学の森田英剛と申します。この度は、このような栄誉ある賞をいただき、心より御礼申し上げます。心臓・血管内科学では、以前より動脈硬化性心血管疾患の先進医療戦略として、高比重リポ蛋白(HDL) 模倣ペプチド (FAMP、Fukuoka university Apolipoprotein A-1 Mimetic Peptide)を開発、特許を得て、動脈硬化抑制や心筋梗塞後の予後改善効果や虚血下肢血流改善等を報告し

てきました。この FAMP についてはその抗動脈硬化作用だけでなく、HDL が有している血管内皮保護作用や抗酸化作用も有していると予想されます。私は、その FAMP の血管内皮保護作用や抗酸化作用について研究しています。血管内皮細胞に対して酸化ストレスとしての酸化 LDL やドキシソルビシンを投与しての細胞遊走能の検証、またマウスへの投与による血行動態や心毒性の程度について、FAMP の可能性を研究してまいります。少しでも、実臨床で貢献できるよう今後も研究を深めていきたいと思っております。

令和4年度 福岡大学医学部同窓会烏帽子会

研究奨励賞募集要項

- 対 象**：正会員及び準会員で、40才未満の者または学部卒業後10年未満の者
(本会会費完納を条件とする)
- 研究課題**：医学に関するものであれば自由(医学に関する研究計画又は研究論文)
- 申請方法**：所定の申請書による(所定欄に支部長推薦を要す)
- 提出先**：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
TEL 092-865-6353(直通) 代表 092-801-1011 / 内線 3032 Fax 092-865-9484
- 締 切**：令和4年5月9日(月) 提出は一人一件とする
- 賞状・賞金**：奨励賞(優秀論文賞を含む)5件以内
- 発表及び表彰**：令和4年7月2日(土)予定、第41回合同福岡大学医学部同窓会烏帽子会総会席上
必ず出席する事
- その他**：①論文受賞者は抄録を提出すること
計画受賞者は1年後研究成果報告書を提出すること
②申請書は同窓会事務局に請求又は同窓会ホームページからダウンロードの事
③申請書はワープロで記載し、過去の研究業績(原著、著書、症例報告、学会発表)、
研究の独創性・重要性を十分に書く事

※準会員の方もご応募ください。

福岡大学医学部同窓会烏帽子会

在外研修援助金 募集要項

長期研修

- 対 象**：正会員、準会員(本会会費完納を条件とする)で医学の研究または医療技術の習得のため、
3ヶ月以上外国に留学する者
- 申請方法**：所定の申請書により留学出発3ヶ月前までに提出の事
- 提出先**：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会事務局
TEL 092-865-6353(直通) 代表 092-801-1011 / 内線 3032
FAX 092-865-9484
- 援助金**：1件20万円を限度とし、年間5件以内
- 発表**：本人に文書にて連絡
- その他**：①受給者は帰国後その成果を同窓会会報に発表する事
②申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードの事
③研修中に生じた問題については同窓会は関与しない
- ※なお在外研究援助金をうけ留学している者は、出来る限り学生会員海外研修助成事業に賛同し、
渡航研修する受け入れ側施設担当者として、協力する事が望ましい。

FU-OMSA賞状・タイバー授与

令和3年7月3日総会にて賞状と名前が刻印されたタイバーの授与を行いました。



● FU-OMSA 賞状・タイバー授与 ●





最後に一人ずつ今後の抱負についてスピーチしていただきました。
約50名の先輩方を前にしての発言は緊張したと思いますが、堂々とした姿と心強い発言に先輩方は嬉しい様子でした。





総会風景



朔啓二郎学長 ご挨拶



小玉正太医学部長 ご挨拶



岩崎昭憲病院長 ご挨拶



講演会



25回生へ幹事引き継ぎ



25回生幹事 ご挨拶



23回生



24回生

最優秀賞

福岡大学医学部 整形外科学
松永大樹先生 33回生
 Taiki Matsunaga, M.D.

Magnetic Resonance Imaging Assessment of Abductor Muscles Shortly After Curved Periacetabular Osteotomy

令和3年度烏帽子会研究奨励賞



優秀賞

福岡大学病院 脳神経内科
三嶋崇靖先生 31回生
 Takayasu Mishima, M.D.

Meta-iodobenzylguanidinemycardial scintigraphy in Perry disease

令和3年度烏帽子会研究奨励賞



優秀賞

福岡大学筑紫病院 呼吸器・乳腺外科
永田 旭先生 32回生
 Asahi Nagata, M.D.

Genetic knockout and pharmacologic inhibition of NCX1 attenuate hypoxia-induced pulmonary arterial hypertension

令和3年度烏帽子会研究奨励賞



優秀賞

福岡大学医学部 整形外科学
中山鎮秀先生 準会員
 ShizuhideNakayama, M.D.

Ubiquitin-specific Peptidase 6(USP6)-associated Fibroblastic/Myofibroblastic Tumors:EvolvingConcepts

令和3年度烏帽子会研究奨励賞



奨励賞

福岡大学医学部 心臓・血管内科学
森田英剛先生 準会員
 Hidetaka Morita, M.D.

改良型HDL模倣ペプチド(改良型FAMP)による抗動脈硬化作用、血管内皮障害抑制作用とそれら機序に関する検討 (計画)

令和3年度烏帽子会研究奨励賞



優秀賞

福岡大学筑紫病院消化器内科
安川重義先生 29回生
 Shigeyoshi YASUKAWA, M.D.

Crohn's disease-specific mortality:a 30-year cohort study at a tertiary referral center in Japan

令和3年度烏帽子会研究奨励賞



優秀賞

福岡大学筑紫病院 内分泌・糖尿病内科
重岡 徹先生 33回生
 Toru Shigeoka, M.D.

Activation of overexpressed glucagon-like peptide-1 receptor attenuates prostate cancer growth by inhibiting cell cycle progression

令和3年度烏帽子会研究奨励賞



優秀賞

福岡大学病院 呼吸器内科
中尾 明先生 準会員
 Akira Nakao, M.D.

Osimertinib in Elderly Patients with Epidermal Growth Factor Receptor T790M-Positive Non-Small-Cell Lung Cancer Who Progressed During Prior Treatment:A Phase II Trial

令和3年度烏帽子会研究奨励賞



教授就任挨拶

教授就任の御挨拶

福岡大学スポーツ科学部 教授 重 森 裕 (24 回生)



重 森 裕
教授 略歴

1993 年 3 月
松尾学園弘学館高等学校 (佐賀県)
卒業
2001 年 3 月
福岡大学医学部医学科 卒業
2001 年 5 月
日本大学医学部脳神経外科 入局
2003 年 4 月
日本大学大学院医学研究科
外科系博士課程 入学
2007 年 3 月
同 修了
2007 年 4 月
日本大学医学部脳神経外科および、
関連病院脳神経外科
2011 年 3 月
国立病院機構 福岡東医療センター
脳神経外科
2011 年 10 月
福岡大学病院 救命救急センター
2015 年 10 月
国立病院機構 福岡東医療センター
救急部 / 脳神経外科
2017 年 4 月
福岡大学 スポーツ科学部
スポーツ医学研究室 准教授
福岡大学 スポーツ科学部診療所
所長
2021 年 10 月
同 教授

研究室 HP:
<https://www.yutakashige.com>

この度令和 3 年 10 月 1 日付けで、福岡大学スポーツ科学部の教授を拝命いたしました重森裕でございます。この場をお借りいたしまして、烏帽子会同窓の皆様にご挨拶を申し上げます。

私は、平成 13 年福岡大学医学部を卒業後、日本大学医学部脳神経外科 (片山容一教授) に入局致しました。平成 15 年に日本大学大学院に進学し、学位ならびに脳神経外科の専門医等を取得しております。約 10 年の日本大学在職中は、大学病院を中心に関東圏の様々な関連病院で、小児から高齢者を対象に主に脳神経外傷や脳神経救急を中心とした診療と研究に従事してまいりました。

平成 23 年 3 月に井上亨教授 (医学部脳神経外科) の御厚意で、福岡大学に戻ってまいりました。また同年 10 月より、石倉宏恭教授 (医学部救命救急医学) の御厚意で、福岡大学病院救命救急センターにて約 4 年の勤務をさせて頂きました。福岡大学では、数多くの素晴らしい指導者や先輩、後輩の先生方との出会いに恵まれ、助けられ、脳卒中や救急医学の専門医等を取得することができました。

平成 29 年 4 月に、福岡大学で長年にわたり研究と後進の指導教育に邁進されておりました向野義人名誉教授 (スポーツ科学部スポーツ医学研究室) の後任として異動致しました。また同年より、スポーツ科学部診療所の所長を併任しております。

スポーツ科学部は、昭和 44 年に体育学部として設立され、平成 2 年に大学院体育学研究科体育学専攻修士課程として 6 部門が設置されております。平成 10 年にスポーツ科学部に改名され、平成 16 年に大学院スポーツ健康科学専攻博士課程として 2 部門設置されておりましたが、本年 4 月よりスポーツ医科学部門を追加設置致しました。

私が赴任後は、スポーツ競技者や愛好者の心身の健康と安全技術の向上などについて主に脳神経外傷学や神経救急学などの視点から研究・教育・人材育成を行っております。また総合大学としての福岡大学の魅力を十分に発揮すべく、令和元年より第 2 記念会堂トレーニング室内に「コンディショニングルーム」を設立し、福岡大学総合体育館内「トレーナールーム」と連携し、スポーツ科学部診療所内で競技者の傷病者対応などを行っています。

今後は、この分野のさらなる発展充実に寄与すべく精進していきたいと考えております。これからも引き続き同窓の皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

教授就任のご挨拶

福岡大学医学部 形成外科学 主任教授 高木 誠 司 (特別会員)



高木 誠 司
主任教授 略歴

1971年2月生まれ

1998年3月

大阪星光学院高等学校卒業

同 4月

大阪大学医学部入学

1995年3月

大阪大学医学部卒業

同 6月

大阪大学形成外科入局

その後、阪大病院や関連病院勤務
などを経て

2004年1月

Australian Craniofacial Unit
(Clinical fellow)

2005年7月

呉医療センター・中国がんセンター

2009年4月

福岡大学医学部形成外科 講師

2011年4月

同

准教授

2021年10月

同

主任教授

令和3年10月1日付けで形成外科学講座の主任教授を拝命いたしました高木誠司(さとし)でございます。ここに烏帽子会会員の皆さまにご挨拶を申し上げます。

私は大阪生まれ、大阪育ち。平成7年に大阪大学を卒業後は、そのまま母校の形成外科教室に入局しました。その後、関連病院勤務や海外留学を経まして、縁あって平成21年に福岡大学医学部に來させて頂きました。当初は短期国内留学のつもりでしたが、福岡という街とこの福岡大学という環境がたちまちに気に入り、気が付けば10年以上を過ごしております。このたび、多くの皆さま方のご支援を頂戴し、新たな役職を授かったことに心から感謝致しますと同時に、今までとは全く違う重責を感じて身が引き締まる思いでいます。改めてイチからのスタートと思い、新たな気持ちで福岡大学医学部と福岡大学病院のために尽くしてまいります所存です。

今後は、臨床、研究、そして教育と人材育成にバランスよく注力していかなばなりません。こと臨床において形成外科には様々な分野がありますが、その大きな特徴として、形成外科は他の診療科と協同させて頂いてこそその存在意義を発揮できる科だと心得ております。私自身の専門は頭蓋顎顔面外科や乳房再建や小児形成外科であります。いずれも他科の先生方の御協力なくしては成立しない領域です。その他にもフットケア、各種再建外科、重症外傷なども協同が必要な分野です。精神的な悩みを外科的に治す「精神外科」のような役割もあります。引き続きに良好な連携を取らせて頂きながら務めてまいります。ただ、私ひとりが気を張っても成し遂げられることには限りがあります。今後はなお一層に教室員達と理念や方針を共有し、形成外科医として高い技術と広い見識・洞察力、そしてアカデミア意識に富んだプロフェッショナル集団を育成していこう。そして教室一丸となって福岡大学のために尽くしていこう。そのように考えております。烏帽子会の皆さま方におかれましては、私自身を含め形成外科教室員一同へのご指導・ご鞭撻のほどを、どうぞよろしくお願い申し上げます。

教授就任挨拶

教授就任のご挨拶

福岡大学病院 臓器移植医療センター 教授 白石 武 史 (特別会員)



白石 武 史
教授 略歴

昭和 60 年(1985 年)03 月
産業医科大学医学部卒業
昭和 60 年(1985 年)07 月
産業医科大学病院研修医
昭和 63 年(1988 年)07 月
産業医科大学第 2 外科助手
平成元年(1989 年) 07 月
産業医科大学第 2 外科助教
平成 04 年(1992 年)07 月
Research fellow, Department of
Cardiothoracic Surgery,
Washington Univ., St. Louis, USA
平成 06 年(1994 年)07 月
福岡大学第 2 外科助手
平成 10 年(1998 年)02 月
Lung transplant fellow, Heart &
Lung transplant service, Monash
University Alfred hospital, Australia
平成 10 年(1998 年)05 月
福岡大学第 2 外科助教
平成 12 年(2000 年)10 月
福岡大学第 2 外科講師
平成 20 年(2008 年)04 月
福岡大学 呼吸器・乳腺内分泌・
小児外科准教授
平成 24 年(2012 年)04 月
福岡大学病院 移植医療部長併任
平成 26 年(2014 年)04 月
福岡大学病院臓器移植医療
センター長・診療教授
令和元年(2019 年) 12 月
福岡大学病院医療安全管理副部長
兼務
令和 3 年(2021 年) 10 月
福岡大学病院臓器移植医療
センター教授

私が出身校の産業医大から福岡大学へ入職したのは 1994 年、まだ日本で脳死臓器移植が開始される前のことです。移籍の目的はただ一つ、「福岡大学で肺移植を実現すること」にありました。当時の日本では「脳死臓器移植」実現への気運が高まる一方、一部の宗教家や知識人からは「脳死を人の死」として「臓器移植」を行うことに痛烈な反対意見が叫ばれていました。移植関係の学会会場では反対派が抗議デモを行い、会員は警備に守られて会場に出入りする、そういう時代でした。

その様な中で、末期臓器不全に対する最後の治療 Option としての臓器移植を実現しようと、各移植領域で私の様な多くの若い外科医が準備に取り組んでいました。当時の福岡大学第 2 外科でも「肺移植を福岡大学で実現しよう」という声が高まり、肺移植への志を持った外科医が集まり肺移植準備チームを作ったのです。やがて 1997 年には「臓器移植法」が成立し、日本でも脳死臓器移植が可能となりました。その際、心・肺・肝の脳死移植に関しては治療の質を担保するために厳しい選考基準に基づく施設認可制がとられましたが、福岡大学は全国 8 か所の「脳死及び生体肺移植」施設の一つとしての認可を受ける事ができました。全国から多くの有力国立大学が手を挙げた中で福岡大学が九州の肺移植を担う施設に選ばれたのは、地方の私大医学部としては画期的なことでありました。

臓器移植医療センターはこの時に福大病院の臓器移植部門を統括する組織として「移植医療部」という名称で新設されました。当時は肺・肝・腎・角膜・脾島の臓器・組織移植チームからなる組織でしたが、2015 年には現在の「臓器移植医療センター」と「再生移植医療センター」に分離し、臓器移植医療センターは「脳死及び生体肺移植」・「献腎及び生体腎移植」・「角膜移植」の 3 移植領域を統括する部門として機能しています。

臓器移植医療センターの役割は、福岡大学の移植医療が法令やガイドラインに基づいて倫理的に実施されるように管理すること、移植医療を推進・発展させること、加えて臓器提供を積極的に支援すること、にあります。この度選任頂きました臓器移植医療センター教授として、今後も福岡大学の移植医療全体の発展に尽くしたいと思っております。

令和2年度 評議員会

令和2年度 評議員会議事録

- ◆日時 令和3年4月24日 16時
- ◆場所 TKP ガーデンシティ
PREMIUM 天神スカイホール
- ◆出席 評議員会：出席理事監事17名、評議員11名
(支部長3名)、支部長2名、WEB出席24名、委任状34名

◇経過報告

- ◆黙禱 亡くなった先生方を悼み黙禱。
- ◆会長挨拶 高木会長

私が非常に感動していることは、朔啓二郎先生（1回生）が学長に就任され、医学部長に小玉正太先生（13回生）、病院長に岩崎昭憲先生（5回生）、筑紫病院長に柴田陽三先生（4回生）、西新病院長に三浦伸一郎先生（11回生）がそれぞれ就任され大学の執行を同窓生が行っていることです。また、新任の教授が3名誕生しました。筑紫病院循環器内科教授に河村彰先生（17回生）、小児科学教授に永光信一郎先生（13回生）、臨床検査医学教授に小川正浩先生（14回生）です。このことは新設大学の概念から完全に脱却し、自分たちの力で大学を作る力を持ったということです。これからがスタートです。もっと発展していく大学になると期待しております。

〈重田副会長〉

昨年は評議員会が開催ができず、学長、医学部長、病院長の紹介ができておりません。今日は学部長のご挨拶と共に、国家試験、子弟の入試状況についてのご報告をお願いいたします。

〈小玉医学部長・副会長〉

病院も学部も改革の時代に入っています。最初の試練でコロナ禍が続いていますが、教育その他全てフレームを変えながら進めています。学長が朔先生になられてガバナンスを全て学部、病院へ移行していただきフレームが揃ったことが新しいことを始める出発点になりました。学部、病院の成果をきちんと報告し同窓会の先生方にご理解いただき応援していただくように施策をPRしていきながらご意見をいただき距離の近い関係を作りたいと考えています。

国試においては安元教授や教務の高松先生のご尽力もあってかなり向上してきました。私が米国留学中に最下位になったことを他国で他学の先生に言われたり、学内の他学出身の先生に気を遣われたりなどの苦い経験がありますのでその様な思いは同窓生にはさせたくないというのが本音です。

今年、文科省より感染症に対応できる人材育成せよとの通達が来ました。80校の内30校を選定し1億円以上の助成金をつけるとの内容でした。これに丸一となって学部より提出したところ1億280万円を獲得しました。この資金を元にシミュレーションセンターを設立します。新しい病院の横に多目的棟が建つ予定でそこでトレーニングを受けることが出来るようになり教育のフレームがまた一つ揃います。

第115回医師国家試験ですが、総合88.1%、新卒91.3%、既卒64.3%となっています。それでも下1/3です。今後は半分くらいに行きたいと思っています。卒業試験で誰が合格し、誰が不合格になるか解るようになりました。厳しい処遇を学生に出来るかが学部長の采配です。私は厳しくしています。それを崩さず先生方にはご支援いただき期待に添えるようにしたいと思います。

入試についてですが、枠については一律ではなく独自の施策も大事です。地域枠も漠然としたのではなく、地元枠に近いような大学独自の枠へと変換させていくことを考えています。これは直ぐに結論は出ませんがその様に考えています。ただ、大学の魅力がないと学生は残りませんのでそこは各先生方に協力いただきやっていきたいと思っています。

〈重田副会長〉

同窓会としては子女の受験に対してアドバンテージを如何につけていくかが問題です。そこは皆で努力し少しずつでも実現できればと思っています。

◇議題1. 令和2年度収入支出決算見込

〈事務局説明〉

[附] 会費納入状況

〈田中理事〉

支部徴収につきましては、令和2年度単独では90.5%という高い納入率をいただいております。令和2年度までの累積も79.6%と高い納入率となっております。100%の徴収率となっている支部もございます。支部徴収にご苦勞をおかけしております役員の先生方には、改めて御礼申し上げます。田川支部、直方鞍手支部につきましては、筑豊支部より2つに分かれており会計上の整理が上手く回っていないようで、0%の報告となっております。納入をお願いしているところですが、本部徴収に関しましては現在のところ47.2%です。本部徴収の締めが5月末ですので例年の数字にいくのではないかと考えております。

例年並みの良い納入状況をいただいております。感謝申し上げますと同時にこの浄財が各活動の源になります。引き続きご支援とご協力ご理解をいただきますようお願いいたします。

します。

以上令和2年度収入支出決算見込について説明いたしました。何かご質問はございませんでしょうか?ないようでしたらご承認お願いいたします。 **拍手をもって承認**

◇議題 2. 令和2年度事業報告及び 令和3年度事業計画(案)について

①会報の発行〈北島理事説明〉

令和1年度に発行予定の会報68号が緊急事態宣言のため6月発行となりましたので令和2年度は3号分の発行となりました。また第1号から42号まで紙ベースで発行していた会報をPDF化し烏帽子会ホームページで全て閲覧出来るようになりました。令和3年度は通常発行に戻りますので減額となります。

〈重田副会長〉

会報の編集方針については、個人的な内容より、大学の情報、医局の情報、支部の情報をリアルタイムで発信するようにしています。

②総会の開催〈重田副会長説明〉

昨年は総会を開催しておりません。今年は開催予定で予算を計上しております。

③支部活動援助〈事務局説明〉

講師招聘援助金は、今年は北九州支部より申請があり援助しております。支部活動費は、支部徴収をいただいている支部に対して援助しております。各支部活動費は、主に七隈支部の活動費用です。

〈重田副会長〉

新教授も誕生いたしました。又、同窓会活動や支部活動が円滑に行われる為に、会長並びに副会長が各種会議を開催したり出席した際の費用でもあります。

④研究奨励賞〈安元理事説明〉

令和2年度は13件の応募がありました。学内の同窓教授に論文を読んでいただき、それぞれ点数付けをし公平に評価を行い、最優秀賞1名、優秀賞2名、激励賞10名の結果となりました。最優秀賞の論文は筑紫病院の30年分クローン病をまとめたもので、受賞された先生はじめ指導教官の平井教授も喜ばれていました。本来総会で表彰いたしますが、開催出来ませんでしたので、理事会で授与いたしました。

⑤在外研修援助金

実施せず

⑥学生会員支援〈小玉学部長・副会長説明〉

激励会につきましてはコロナ禍の中食事は出来ておりません。M4CBTの結果が大変悪く補講が必要となりましたが、予算計上が出来ずに同窓会へお願いしました。

FU-OMSAについてはかなり学生のモチベーションになっています。残念ながら表彰だけとなっていますので、時

世を鑑みながらですが、国試後位にねぎらうことが出来ればと考えています。今後においても新入生歓迎会、M4激励会、M6激励会の開催は状況を見ていく必要があります。

⑦白衣贈与〈小玉学部長・副会長説明〉

5年生にはStudentDoctor認定式で授与する白衣、1年生には病棟実習、3年次の地域医療実習で着用するためのKC型白衣を作っていただいております。授与は学生と教職員のみ参加で行いました。

⑧国試対策費〈安元理事説明〉

令和2年度は飲食を伴う激励会が出来ませんでした。それに替わるものとして、国試当日に使う防寒グッズ、消毒液、マスク、エネルギー食や飲み物をなど1人5千円程を袋に入れた「応援袋」を5年生にも手伝ってもらって準備しました。最後の模擬試験が終わった後に、同窓の先生や、クラス担任の先生方から同窓会からと説明し、6年生に配らせていただきました。これは非常に喜ばれ国試当日も福大の受験生全員袋を持って会場入りしております。準備に関わってくれた5年生が来年度も是非自分達の時にも配って欲しいとの強い希望がありましたのでよろしければまたお願いしたいと思っております。

⑨支部祝儀贈与〈重田副会長説明〉

新しく支部が発足した時にお祝い金として5万円、各支部会に理事が参加させていただく時に祝儀3万円を本部よりお渡ししています。令和2年度は北九州支部のみ開催されましたので贈与しています。

⑩学生行事援助

実施せず

⑪学会寄付〈事務局説明〉

令和2年度は2件の学会寄付依頼があり、コロナ禍での開催は少ないようですが、今後はWEB学会が多くなるようです。

⑫慶弔贈与〈事務局説明〉

お慶び事としましては二人の教授が誕生いたしました。退職された教授へのお花、逝去された4名の先生方へ、仏生花または弔慰金を出しております。

⑬グッズ作製

実施せず

⑭会員名簿〈事務局説明〉

令和3年度に会員名簿第12号を発行予定です。

⑮奨学金緊急貸与

実施せず

⑯パニックマニュアルの発行〈北島理事説明〉

令和2年11月に会報と一緒にパニックマニュアル第7版を送らせていただきました。作成費用は令和1年度に終わっていますが、冊数の不足が判明しその追加費用が発生しました。またデジタルブックの作成、パニックマニュアル執筆謝礼を行いました。

⑰縁結び〈田野理事説明 WEB 出席〉

縁結びに関わる案内、申込書の諸経費、ホームページドメイン料に使わせていただいています。将来的にはご本の人だけでなく親御さん同志の面会になっていくのではないかと考えています。

⑱保険コンサルティング紹介〈武末理事説明 WEB 出席〉

生命保険その他いろいろな保険の情報提供、それに付帯して弁護士相談、労務相談を行っております。コロナ禍の中でも弁護士相談、労務相談は一定の割合でご相談いただいています。保険は国試合格者宛てに主に親御さんへお送りしており、お母様よからの問い合わせが多いようです。同窓会からのご案内と解るように同窓会の封筒で出してその封筒代として予算を計上しております。また、ホームページから保険、コンサルタント事業にアクセスし、ご案内や相談しやすいように計画を進めています。

⑲ホームページ〈北島理事説明〉

ホームページは株式会社エムホールド様に月1回の追加アップデートとサーバーレンタルを年間契約でお願いしております。会報につきましては、69号～42号まではPDFで閲覧でき、41号～1号は表紙のみ掲載しておりましたが、今は全て内容を閲覧できます。パニックマニュアルにつきましてはデジタルブックで閲覧出来るようになりました。339ページありますので検索が出来るようになりました。閲覧においてIDとパスワードが必要なページがありますが、会報目次ページの一番下に記載しておりますのでご参照いただければと思います。

⑳大学院生援助〈小玉学部長・副会長説明〉

大学院生への援助は、私が学部長に就任して最初に提案させていただきました。以前、会長・副会長とご一緒した全国の同窓会の集まりで、基礎医学において著名な先生とのお話の中で、基礎講座への大学院進学の実策として行っていることを伺い大変感銘を受け、いつかお金を捻出し基礎医学へ進学する大学院生を募りたいと考えておりました。うちの同窓会にはFU-OMSA、烏帽子会賞があり学生には啓発、表彰、奨励がありますが、その後は研究奨励賞で、その間の若い先生を後押しする施策がありませんので提案させていただきました。全国医学部長病院長会議で話しましたら皆さん感動され、始められた大学もあるようで波及しております。

〈重田副会長〉

以上事業計画案について説明いたしました。何かご質問はございませんでしょうか？

〈鹿児島支部長 橋口先生〉

支部長を引き継ぎ3年目です。コロナ禍もあり新たな組織作りに苦勞しております。

200名近くの会員が居られますが、支部会には例年20～30名程で若い先生方がお越しいただけません。また支部徴収でも苦勞しております。他の支部の状況を教えていた

だけたらと思います

〈北九州支部長 坂本先生〉

北九州支部は医師会の口座を使って自動引き落としをしています。それが出来れば安定します。勤務医や引き落としを拒否される先生は本部徴収しかないと思います。

〈重田副会長〉

他にご意見ご質問はございませんでしょうか？

無いようでしたら事業計画案のご承認お願いいたします

拍手をもって承認

◇議題3. 令和3年度収入支出予算(案)

事務局説明

〈重田副会長〉

以上令和3年度収入支出決算見込について説明いたしました。何かご質問はございませんでしょうか?ないようでしたらご承認お願いいたします。

拍手をもって承認

◇議題4. 福岡大学新病院寄付について

〈川浪理事〉

福岡大学病院本館は昭和48年に開院しかなり老朽化が進んでおります。新新病棟の南側に福岡大学病院新本館を建設することが決まり進行しております。予算は250億円ほどかかりその内10億円を寄付として集めたいというのが福岡大学病院の意向です。新本館は令和5年の竣工を目指しております。地下1階地上12階一番上にはヘリポートも設置されます。スローガンとしましては「メイクフューチャーホスピタル」高度先進医療、AI、IOTなどの技術を活用する病院を目指します。

寄付につきましては、個人の方は一口2万円からで卒業生、在学生保護者、教職員です。法人団体は一口の金額に定めはありません。5万円以上寄付をいただきますと銘板をお作りするようになっています。50万円以上、100万円以上と寄付の額が大きくなりますと個別懸賞、銘板のサイズを大きくする等の懸賞が予定されております。コロナ禍で大変厳しい状況ではあると思いますが、ご寄付をよろしく願いたします。

〈重田副会長〉

75周年募金額121,593,735円が一応の目安になると思います。同窓会の事業積立金からどの位出せるか、卒業生も増えておりますので前回以上は集まると思いますが、募金期間が令和3年5月から令和5年12月の2年間で若干厳しい状況ですが、流れに沿って行くしかないと思います。

〈高木会長〉

募金は一致協力できるかが重要だと思います。何度も寄付お願いのメッセージを送る必要があると思います。

〈重田副会長〉

学年、地域特に地元福岡でどの位集めることが出来るか、いろいろなデータを出しながら進めたいと思います。よろしくをお願いします。

◇議題 5. 決算評議員会省略の件

拍手をもって承認

◇議題 6. 福岡大学医学部同窓会烏帽子会
第 39・40 合同総会

安野哲彦先生より説明あり

日時 令和 3 年 7 月 3 日土曜日

場所 ソラリア西鉄ホテル又はメディカルホール

総会、表彰のみを考えています。講演会、懇親会は行わない方針です。また同級生の交流は 10 年前より同窓会を定期的に開催し親交を深めて来ました。

◇議題 7. 朔学長誕生についての説明と
人事についての説明

〈林副会長〉

- 2015 年 12 月 1 日新学長新執行部就任
大学執行部主導の病院・医学部関連新事業が計画される
- 福岡大学博多駅クリニック（KITTE ビル）
2016 年～ 2021 年 3 月
- ドクターバンクシステム(仮称)反対により中止となる。
- 福岡大学西新病院 2018 年 4 月 1 日～
- 福大執行部への運営批判
- 福岡大学病院新本館 随意契約、デザインビルド方式で 1 社に発注
- 若葉学園移転 事業費 60 億円。若葉高校の校舎移転 5 社指名 5 社でプロポーザル方式の技術提案(株)日本設計を追加 2 位となった 1 社を指名。
- 若葉高校の敷地約 8000 坪、移転予定地は約 7000 坪移転は評議員会で反対多数で否決されたが 2019 年 1 月無許可で工事前検査再開したため特別委員会での検討となる。
- 2019 年 3 月評議員会・理事会で告発
- 2019 年 9 月 5 日
- 学長並びに執行部のコンプライアンス違反新聞報道
- 2019 年 9 月 15 日
- 学長選挙において朔啓二郎先生選出。

◇議題 8. 新教授紹介・ご挨拶

福岡大学筑紫病院循環器内科教授

河村 彰 先生 17 回生

令和 2 年 4 月 1 日より福岡大学筑紫病院循環器内科の教授に就任いたしました。着任早々、コロナ禍真っ只中で大変な一年でしたが、今は順調に回復し症例数も伸びております。お見知りおきと先生方のご指導ご鞭撻の程よろしく申し上げます。

福岡大学医学部小児科学教授

永光 信一郎 先生 13 回生

令和 3 年 4 月 1 日に福岡大学医学部小児科学主任教授に就任いたしました。皆様のおかげで教授に就任することが出来ました。感謝申し上げます。平成 2 年に卒業し久留米大学の小児科へ入局し 31 年ぶりに戻ってまいりました。就任から三週間経過しましたが、業務内容が一変して大変苦労しております。同級生の小玉医学部長、和田教授、鍋島教授に助けられながら日々過ごしております。小児医療は大変厳しい状況になっております。子ども数の激減、コロナ禍での受診控えが増えたことで国も小児科医を減らそうと考えているようですが、何とか対抗していきたいと思っております。七隈の医局員、筑紫病院の先生方と共に小児医療を盛り上げて行きたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

福岡大学医学部臨床検査医学教授

小川 正浩 先生 14 回生

令和 3 年 4 月 1 日付けで臨床検査医学教授を拝命いたしました。従来は循環器内科で診療しておりますので先生方には診療で大変お世話になってきました。今度は臨床検査医学ということで随分畑違いで私自身も勉強していかないといけないと思っています。三週間経ちまして循環器内科の診療プラス臨床検査の管理運営がアドオンされた状況で仕事に忙殺されています。コロナ禍でもあり検査の需要、必要性は喫緊の問題として重要なところですが、第 4 波の襲来があつて検査のキットの供給がままならない状態が来るのではないかとこの危機感にも迫っております。今後とも先生方のご指導ご鞭撻の程よろしく申し上げます。

〈重田副会長〉

筑紫病院循環器内科浦田教授の後に、河村先生、小児科学廣瀬教授の後に、永光先生、臨床検査医学松永教授の後に小川先生と、自校出身教授で後が続いていることは大変良かったと思っています。引き続き先生方には頑張って大学を引っ張って行っていただきたいと思っています。同窓会も全力でバックアップしますのでよろしく申し上げます。

令和 2 年度評議員会を終わらせていただきます。

ご協力ありがとうございました。

学会報告

第111回消化器内視鏡学会九州支部例会を終えて

福岡大学医学部 消化器内科学講座 平井郁仁 (14回生)

烏帽子会会員の先生方に主催学会の報告をさせていただきます。2021年6月11日と12日の2日間にわたりアクロス福岡におきまして第111回消化器内視鏡学会九州支部例会を無事に開催することができました。この学会は年に2回、日本消化器病学会九州支部例会と合同開催されます(今回は福岡山王病院の伊藤鉄英先生が主催された第117回日本消化器病学会九州支部例会との合同開催でした)。消化器病学および消化器内視鏡学についての研究成果の発表や症例報告を行う場として消化器関連の医師にとっては重要な学会です。コロナ禍の影響で初のハイブリッド開催となったのですが、関係各位のご協力で特に大きな問題も生じず円滑に運営できました。学会テーマは「未来につなぐ消化器診療」とし、未来を意識したシンポジウムとワークショップを企画し、主題・一般演題ともに可能な限り若い先生方を司会・座長に選定しました。多くのセッションで消化器病学の明日を語ることができ、有意義な学会であったと自負しております。通常は約800名の消化器内科医、消化器外科医、病理医、そして研修医や専修医が参加しますが、今回は1100名を超える参加数があり盛会のうちに終えることができました。ハイブリッド開催には一長一短がありますが、パソコンさえあれば日常診療をこなしながら手軽に参加できるのは大きな利点だと思います。時代の流れかWeb開催を併用したことで(どのくらい視聴されていたのかは明確に

はわかりませんが)、参加登録をした医師が多かったのではないかと拝察しております。ただし、主催者側にはWeb配信など普段とは異なる準備の負担や費用面での不安は想像以上に大きく、改めて非常時の学会開催の難しさを感じました。烏帽子会からのサポートはハイブリッド開催に伴う機器や人件費に充てさせていただきましたが、非常にありがたいご支援でした。この場を借りて心からお礼を申し上げます。今後も学会や研究会を主催する機会があると思いますが、福岡大学医学部卒業生として臨床医学、基礎医学の発展に貢献できるよう努力して参ります。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



日本泌尿器科学会福岡地方会第 308 回例会開催報告

福岡大学医学部 腎泌尿器外科学 羽 賀 宣 博 (特別会員)

この度は、福岡大学医学部同窓会の多大なるご支援の下、上記学会を 2021 年 7 月 24 日(土)に福岡大学医学部 腎泌尿器外科学講座が主幹で開催することができました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。今回の地方会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、完全 Web 開催となりました。登録者数は 200 名以上となり、登録演題数は 29 題となりました。演題数もさることながら、興味深い発表も数多くあり、大変勉強になりました。

また、今回の地方会では特別講演で、「泌尿器科医 40 年の歩み—めざましい医学・医療の進歩の中で—」というタイトルで、田中正利名誉教授からご講演を賜りました。田中先生のライフワークとされている、腹腔鏡手術やロボット手術に関するテーマや、性感感染症に関わる基礎的な研究、そして留学時代のお話を拝聴できました。特に私が印象に残りましたのは、泌尿器腹腔鏡の副腎手術のガイドラインの委員長をされた御経緯に関するお話と、内視鏡外科学会において、七福神にかけて、「七副腎」に御推挙されたと言うお話でした。田中先生の手術の実力、高い見

識、そしてお人柄が表れているようでした。また、講演終了後には、産業医科大学の藤本教授から、開腹手術や腹腔鏡、ロボット手術に関する手術手技の次世代への継承に関するご質問がなされておりました。手術の名手ならではのことかと拝察いたしました。

本来であれば、対面形式で会を実施したかったのですが、コロナの感染状況や諸事情を鑑み、残念ながら完全 Web 開催といたしました。感染状況が許されるのであれば、今後は対面形式での学会を行いたいと考えております。また、今回、福岡大学に着任して初めての大会会長となりました。準備の段階から、医局員や秘書さんが、大変協力的に、そして率先して業務を行っていただきましたので、私自身ほとんど苦労せずに、地方会当日を迎えることができました。そして、学会が無事盛会に終了したことを大変喜ばしく感じております。

末筆ではございますが、福岡大学医学部同窓会の皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。また、引き続き、ご指導ご鞭撻の程よろしく願いいたします。



第6回腎移植内科研究会学術集会－開催報告

福岡大学医学部 腎臓・膠原病内科学 主任教授 升 谷 耕 介 (特別会員)

2021年9月12日(日)、第6回腎移植内科研究会学術集会を開催しました。昨年9月に福大メディカルホールでの開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染流行のため1年延期し、再び対面での開催を目指していました。しかし、繰り返す流行と緊急事態宣言のためハイブリッド形式での開催となりました。

本研究会は、末期腎不全治療のひとつである腎移植の成績向上のため、腎移植の啓発、移植後内科的合併症の予防と治療、長期成績への影響因子の探索、ドナー管理等の学問の進歩と促進を内科的見地から図ることを目的として発足しました。前身の関東腎移植勉強会から全国展開を目指して腎移植内科研究会へと改称し、回を重ねて参りました。わが国の腎移植は著しい献腎ドナー不足のため、生体腎移植に依存し、世界的に見ても腎代替療法として普及しているとは言えません。内科医が移植を学ぶ機会に限られる中、若手内科医の間に腎移植を積極的に学ぼうという機運が高まっており、本研究会の役割は今後益々重要になってくるものと思います。

第6回学術集会においては、よくわかるシリーズとして腎移植前評価、手術手技、組織適合性検査、移植腎病理という、現代腎移植において必須の内容を4名の演者にご講演頂きました。ランチョンセミナー

では国立成育医療センターの村島温子先生に妊娠中の全身性エリテマトーデスや腎移植患者の薬物治療についてご講演頂きました。特別講演では亀田総合病院感染症科の大澤良介先生に腎移植前の感染症スクリーニングとワクチン接種について、新型コロナウイルス感染対策を交えてご講演頂きました。一般演題も腎移植後の悪性腫瘍、感染症、再発腎炎など多彩な演題をご応募頂きました。当日はオンラインでの参加者56名、現地参加者16名による活発な討論がなされました。

今回の学術集会を無事に終了できましたのも、福岡大学医学部同窓会烏帽子会、腎臓・膠原病内科同門の皆様のご支援のおかげであります。この場をお借りしまして心より御礼を申し上げます。今後も末永くご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



教室紹介

整形外科科学講座

福岡大学医学部 整形外科科学教授 山本卓明 (特別会員)

福岡大学整形外科学教室は、昭和47年に開講し、現在、同門会会員が300名以上、関連病院は、北海道から沖縄まで全国に30施設以上ある、わが国でも有数の臨床実績を有する教室です。

2020年は、大学病院で年間1,200件以上の手術を行い、スポーツを含めた整形外科の全分野を確実にカバーしています。さらに、関連病院をあわせた手術件数は年間32,000件以上(2020年)に上ります。

毎年、多くの教室員を受け入れており、2020年度は24名、2021年度は18名です。当教室の大きな特徴の一つは、多様性重視の観点から、個人の自主性を最大限尊重し、かつ、その能力を発揮すること

ができるよう最大限配慮をしていることです。

当科には、家訓ならぬ、科訓があり、「三科訓」として、常に意識付けを行っております。「思いやり」、「正直たれ」、「整形外科のプロたれ」です。

福大整形外科のミッションとして、以下の3つを掲げ、日々精進しております。

- ① 臨床:患者さん中心の医療
- ② 教育:良質な臨床医・整形外科専門医の育成
- ③ 研究:臨床そして患者さんに還元できる研究

「現状維持は後退である」という認識のもと、現状に決して甘んじることなく、常に発展・進化する意識をもって、日々の臨床・教育・研究に取り組んでいます。



眼科学講座

福岡大学医学部 眼科学教室 医局長 原 田 一 宏

福岡大学医学部眼科学教室は、1973年4月に開講しました。初代教授は増田義哉教授が就任され、当初は5名という非常に少ない人数で始まったと聞いています。1978年に大島健司先生が二代目の教授に就任され、網膜硝子体の外科的治療の発展を牽引してきました。

2005年に内尾英一先生が三代目教授として就任され、現在に至っています。当教室の特色として角膜移植を積極的に行っているところがあげられます。以前は国内のアイバンクより提供いただいた角膜を使用し移植を行っていましたが、待機時間が長期にわたることもあり、現在は輸入角膜による移植を行っ

ています。これにより手術の待機期間は平均2か月以内で行えています。角膜移植が可能というメリットを生かし、全国でも珍しい硝子体手術と角膜移植の同時手術も行っております。また、緑内障、小児眼科、網膜硝子体とそれぞれの専門の先生がおり、連携し、眼科疾患の治療を行っています。

これからも教室員一同、眼疾患の治療において地域医療への一層の貢献とともに、臨床、基礎的研究で眼科学の発展のために日夜研鑽していく所存です。今後とも先生方のご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



産婦人科教室

福岡大学医学部 産科婦人科学 医局長 倉員正光

社会貢献できる医師を志す

産婦人科教室のモットーは、「協調」と「責任」です。年齢や立場が異なる医師同士が互いに協力し合い、社会人としてもその責務を全うすることを信念としています。臨床診療では、がん診療連携拠点病院であり、かつ総合周産期母子医療センターという三次救急医療機関でもあることから、福岡県内における産婦人科診療の中心的な役割を担い、患者さんに高度な先進医療を提供しています。加えて、「研究」「教育」「社会活動」においても日夜努力しています。「社会貢献できる医師」の形成が、当教室の大目標です。その大目標を達成するために、産婦人科学サブスペ

シャリティー領域(腫瘍領域、周産期領域、不妊・内分泌領域、超音波領域、女性ヘルスケア領域、臨床遺伝領域)における専門医取得を積極的に支援しており、複数の専門医資格を取得しながら診療を行っています。また、活発に学術活動し、医局員全員が学位取得に励んでいます。当教室は、目紛しく変化する世の中の動向を注視しながら、様々な仕組みづくりや施設間交流などを通して、「改革」と「進化」を続けています。今後も医療を通して様々な社会活動を継続することを使命として、精進して参ります。



麻酔科学講座

福岡大学医学部 麻酔科学 教授 秋 吉 浩三郎 (特別会員)

福岡大学医学部麻酔科学教室は、福岡大学に医学部が新設された昭和47年に檀 健二郎 初代教授が開講され、比嘉 和夫 教授、山浦 健 教授と引き継がれてきた歴史ある教室です。平成31年4月より秋吉が教室運営に当たっています。現在、医学部教員2名、病院教員11名・助手24名、更に福岡県内外10余の関連施設に所属する教室員併せて90名弱で診療・教育・研究に当たっています。麻酔科学の基礎は麻酔・周術期管理、集中治療、疼痛治療ですが、実臨床では、手術麻酔管理に加えて、周術期管理、術後集中治療、救急医療、疼痛治療や

緩和医療、無痛分娩、栄養管理や安全管理など、我々が貢献すべき領域が広がっています。増え続ける需要に対して、医局員はまだ不足していると言わざるを得ませんが、毎年10人余りの若者が麻酔科での研修を希望し、我々の仲間に加わってくれています。教室全体としては非常に若く、まだまだ力不足ではありますが、若い力を活かして、臨床と教育、研究を充実させ、医学及び福岡大学医学部の発展に少しでも貢献できるように頑張っていく所存です。烏帽子会の先生方におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



会員寄稿

第30回日本乳癌画像研究会開催

第30回日本乳癌画像研究会当番世話人 糸島医師会病院 乳腺センター 渡 邊 良 二 (8回生)

この度、第30回日本乳癌画像研究会(2021年2月12日(金)・13日(土)の2日間)を開催致しました。本研究会の開催に際しまして、烏帽子会の皆さまには多大なるご支援を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。また、福岡では2回目の開催となりましたが、盛会のうちに終えることができましたので、ここにご報告させていただきます。当初、アクロス福岡にて会場(on-site)とWEB(on-line)でのハイブリッド方式で準備をしていましたが、非常事態宣言の発令により、急遽WEB方式に変更し、連絡や準備等で苦劳いたしました。

ご承知の通り乳がん診療に関する進歩は薬物だけではなく画像診断に関してもめざましいものがあります。本研究会では、乳腺疾患の画像診断に関して日本や地域を代表する一流の講師陣や座長、コメンテーターによる特別講演(佐賀大学医学部教授青木洋介先生、7回生)と教育講演ならびに教育セミナーの形式で御講演とシンポジウムやパネルディスカッション、一般演題の構成で開催致しました。また、乳がんの画像診断の知識や技術も習得していただくためにライブ形式で超音波操作やインターベンションのコーナーも取り入れ、若手医師や検査技師の方にもためになる研究会を開催しました。さらに、今回は発表だけではなく、より理解を深めていただくために、マンモグラフィではトモシンセシスを、超音波ではABUSを、さらにMRIの症例を提示しクイズ形式で

症例提示をしていただき、多数の参加をいただき盛況を呈しました。また、一般演題も多数の発表があり、活発な討議が行われました。青木先生の特別講演「過去に類をみない感染症が医療 / 社会に及ぼす影」は目から鱗の内容が満載で、大変勉強になりましたという声を多数の参加者からいただきました。御陰さまで、招待者を含め782名の例年を上回る参加人数があり、盛会でカンファランスを終えることができました。これも、皆様から頂きました御高配の賜物と思い、心より御礼申し上げます。開催形式変更により、苦劳も多々ありましたが、全国の参加された多数の先生方から、冨田昌良院長(7回生)と顧問をしていただいた元がん研究所病理部(臨床病理担当部長)の秋山太先生(7回生)をはじめ糸島医師会病院のチームワークの高さに感謝とお褒めの声をいただきました。また、本研究会の開催に際しましては、多くの方々から惜しみないご指導、ご鞭撻を戴きましたこと、本誌をお借りし御礼申し上げます。最後になりましたが、福岡大学医学部同窓会の皆様方には心より御礼を申し上げますとともに、烏帽子会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

尚、2023年11月24-25日、福岡で日本乳癌検診学会を担当させていただくこととなりました。引き続きご支援ご指導お願い致します。

次頁のQRコードはWEB研究会開催時の運営動画です。何かの参考にしていただければ幸いです。



<https://youtu.be/lafXlgLun4Y>

キャンパスだより

烏帽子会賞授与

福岡大学医学部長 小 玉 正 太 (13 回生)

第 108 回日本病理学会総会での学生・研修医ポスター発表部門において優秀演題賞を受賞した濱田利尚君への烏帽子賞賞状を医学部長室にて授与しました。

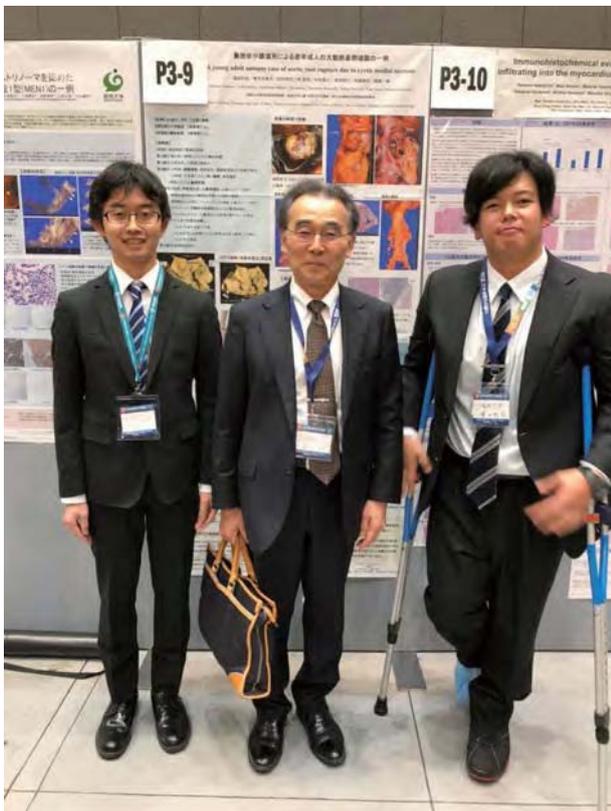
濱田君は、令和元年 5 月 11 日に東京国際フォーラムで開催された日本病理学会総会第 3 日目の学生・研修医ポスター発表部門にて、「嚢胞状中膜壊死による若年成人の大動脈基部破裂の一剖検例」という演題で発表し優秀演題賞という荣誉ある賞を受賞し、また学部学生受賞者の中で 1 人だけ受賞スピーチに選ばれました。

例年、烏帽子総会懇親会会場にて緒先輩方の方で行っていますが、昨年、今年と懇親会の開催が出来ない状況となりましたので学部長室にて授与を行いました。

濱田君は、この時期、足を骨折しており学会発表

を辞退しようかとも考えたそうですが、病理学教室の先生方のご支援や、濱田君が在籍している社会医学研究会や柔道愛好会のメンバー、一緒に学会発表に行った大野君、周りの同級生の協力もあり何とか東京まで行き発表することができています。

人に愛される人柄、最後までやり抜く力を持っている彼の今後に大いに期待しています。



発表当日松葉杖の濱田君

訃 報

正 会 員	鉢 嶺	顯 先生	令和 2 年 9 月 16 日	ご逝去 (18 回生)
正 会 員	久 保 次 郎	先生	令和 3 年 3 月 20 日	ご逝去 (8 回生)
正 会 員	小 金 丸 史 隆	先生	令和 3 年 4 月 5 日	ご逝去 (3 回生)
正 会 員	富 松 英 郎	先生		ご逝去 (11 回生)
正 会 員	鈴 木 齊 先生		令和 3 年 6 月 13 日	ご逝去 (5 回生)
正 会 員	篠 原 貫 之 先生		令和 3 年 7 月	ご逝去 (8 回生)
正 会 員	花 栗 勝 郎 先生		令和 3 年 8 月 12 日	ご逝去 (4 回生)
特別会員	奥 村 恂 先生		令和 3 年 5 月 17 日	ご逝去

奥 村 恂 先生 の 思 い 出

山 寄 節 (1 回 生)

「どげんですか?」

「このごらあ、どげんしとらっしゃあですか?」

奥村恂先生にお会いした時、まずは軽く博多弁が混じった上のようなお言葉から始まるのが常でした。

奥村先生は生粋の博多っ子。お父上は福岡市長を務められた名士で、旧制の福岡中学校(現在の福岡県立福岡高等学校)から九州大学へ進学されました。卒業後は九州大学の第二内科で肝臓疾患の研究に取り組み、当時「オーストラリア抗原」と呼ばれたB型肝炎ウイルスの発見に貢献されたと聞き及んでおります。福岡大学医学部創設2年目の昭和48年に暫定病院であった九州電力香椎病院に着任され、福岡大学病院開設後は第一内科を主宰され、主に消化器疾患分野の診療・研究・教育に務められました。福岡大学病院の副院長や、昭和60年に開設された福岡大学筑紫病院の初代院長を歴任なさいました。

私が入局した時は、医局は研究棟の新館4階に移動した後で、角部屋の奥村教授室の隣が秘書さんたちが詰め、若い医局員が談笑する部屋でした。時折奥村先生ご自身で湯飲み茶碗をもって入ってこられ、たむろする若い医局員たちに軽い博多弁で一声二声掛けて教授室に帰って行かれました。まだまだ下っ端の分際でしたので、奥村先生から厳しく叱責された記憶は幸いありません。ですから奥村先生のイメージは、物静かで、飄々とした紳士然とした研究者の姿でした。

第一内科同門会を立ち上げる際には、奥村先生のお誕生日に近い毎年9月の第3土曜日を定例開催日

と決め、還暦のお祝いを兼ねて設立総会を準備し開催いたしました。奥村先生にはたいそう喜んでいただきました。当時の医局長で同門会の知識に乏しかったわれわれをご指導いただいた山本登士先生(内分泌・糖尿病グループ)が奥村先生がお亡くなりになる一週間ほど前に急逝なさっていたことも何らかの縁を感じています。また、当時の第一内科の中で神経グループを率いていらっしゃった西丸雄也先生も半年ほど早く鬼籍に入られました。

奥村先生は、私の父と九大二内科の同門ということもあってか、私の家の事情もご存じで、「将来後を継いで市中の開業医となるであろうから」と研修医期間開けの研究室所属を半年猶予していただき、神経グループでのトレーニングを快く認めていただきました。また唯一の出張経験も、実家近くの公立学校共済組合九州中央病院だったのも、奥村先生と消化管研究室主任の八尾恒良先生のご配慮があったからと感謝しております。父が直腸がんでリタイヤし、卒業7年足らずで急遽医局を辞め医院を継承する事になったときも、快く退局を認めていただきました。

奥村先生は福岡大学を定年退職後も市内の医療機関で診療に従事され、途中大病もなさったそうですが克服され、90歳過ぎまで毎週出勤なさっていらっしゃいました。また市内の講演会でもしばしばお見かけしておりました。中でも福大での研修期間中に劇症肝炎を発症され、九大には帰られず福大病院で治療し回復された筒信隆福岡赤十字病院糖尿病内科部長が定年記念講演の際には、極寒期の夜であったにも拘わらず足を運ばれ、筒先生の労を労われ

ていらっしやったお姿は感激いたしました。

「米寿のお祝い」、90歳を迎えられての「長寿のお祝い」と松岡正樹先生（2回生・消化器内科同門会長）たちを中心に、弟子一同が集まって席を設けた時も、かくしゃくとして舞台上に直立して淀みないお言葉でご挨拶なさいました。われわれが拙いお祝いの「一口博多にわか」を即席で披露したときには「まだまだですバイ」と発破を掛けられたのも思い出です。

「まだまだ負けんごと、頑張らないかんですバイ」がいつも奥村先生との席を辞す時に掛けていただいた言葉です。いつまでたっても不祥の弟子を氣遣っていただいていたの励ましの言葉だったと感謝し、心に刻んでおります。

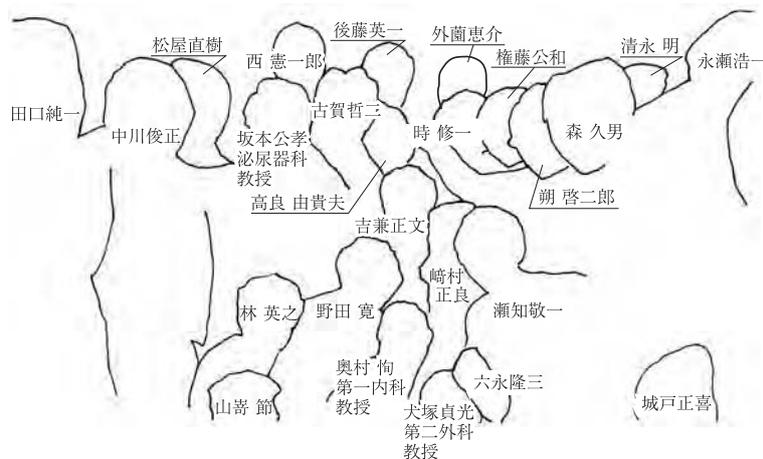
奥村恂先生は令和3年5月17日、反復性肺炎で旅立たれました。94歳でした。

合 掌



「一回生の飲み会」（日時不明）中央下部の奥村恂先生を囲んで。

朔敬二郎学長、林英之教授のほか、当時の泌尿器科坂本教授や第二外科犬塚教授も写っていらっしやいます。
（写真提供：永瀬浩一先生）



小金丸史隆先生を偲んで

いりえ小児科医院理事長 入 江 勝 一 (3 回生)



小金丸先生にはコロナ禍で、ここ2年ほど会っていませんでしたが、それまでは元気でしたので、訃報をうけた時は、すぐには信じられませんでした。

小金丸先生との出会いは、大学1年生で福大医学部ラグビー部に入学した時です。同学年でしたので大学生活は、ほぼ一緒に過ごしました。なんでそう呼ばれていたのか知りませんが「タマオちゃん」のニックネームで皆から呼ばれていたのが自分も小金丸先生より年下ですが、親しみを込めてそう呼んでいました。お互い学生生活はラグビー中心の生活でラグビーにのめり込んでいました。現在新館が立っているところに本学のラグビー場がありましたので、その片隅で授業終了後暗くなるまで練習していました。ポジションが同じフォワードでしたが自分と違って小金丸先生は足も速かったのでフランカーをやったりして目立っていました。当初は練習も軽い内容でしたが、現同窓会会長の高木忠博先生がキャプテンになられた頃から、練習が厳しくなりハードな合宿もやるようになりました。特に思い出されるのは、鹿児島で甲南高校との合同合宿でハードすぎて食事もうろくに食べられず、水で流し込んでいた記憶があります。引退後もこの合宿を経験したOBの間ではよく話題になり小金

丸先生とも「お互いよく頑張ったな」と懐かしく語り合うこともしばしばでした。今もそうだと思いますが西医体が大きな目標の一つで、練習の甲斐あってベスト8まで進んだこともありました。西医体のラグビーの試合は当時8月開催で、それに備えて直前に合宿もやっていたので9月の前期試験は勉強するどころではなく、結果は皆、散々なものでした。後期の試験結果が進級の分かれ目になりお互い必死で資料を持合い一緒に勉強していました。幸い、二人とも、どうにか進級できました。

小金丸先生は5年生時だったと思いますが学生結婚され、落ち着かれてしまい、一緒に飲み歩いたりすることは少なくなりました。

卒業後は、小金丸先生のお父様が大大分県日田市で小児科医院を開業されていたので、当然、自分と一緒に小児科に進まれるとばかり思っていました。放射線科に入局されました。その後、ほとんど会うことはなかったのですが、福岡大学筑紫病院が開設されたとき、診療科は違いますが、縁があって一緒に赴任することになりました。開設当時は診療科も少なく5階病棟が医局にあてられていましたので、部屋も近く、よく話していました。

小金丸先生は、もともと世話好きで面倒見がよく、頼まれたことは断らないで、いろいろな役回りをされていました。15年ほど前に福大医学部ラグビー部のOB会を立ち上げることになった時も献身的に、いろいろ世話をされました。大学勤務の後、八幡西区でクリニックを開業されましたが、そこでも医師会の役員を歴任され、国会議員等の選挙などでも率先して支援活動されていたようで、忙しくて仕方ないところばされていました。ラグビー部のOB会が年に1回あり、二人ともほぼ皆勤で、お互い孫がいる年齢となりましたが、まだまだ頑張らなければと語り合っていました。

今回、訃報に接し残念で仕方ありません。タマオちゃん今まで有難うございました。安らかに眠りください。

我が青春の友 久保次郎

酒 井 憲 見 (8 回生)



次郎と私が出会ったのは共に高校3年生の昭和47年8月。久留米市の医科系予備校の夏期講習でした。次郎は佐世保北高校、私は熊本マリスト学園高校と高校は違っていましたが、共通の趣味が多く、私たちは直ぐに仲良くなり、一緒に遊ぶようになりました。

現役での受験に失敗し、昭和48年4月に久留米市の明善時習館で私たちは再会しました。次郎は生物の松瀬先生の自宅に下宿し、私は小郡の自宅から時習館に通っていましたが、1週間くらいで、朝から雀荘に集合するようになり、生物と体育の授業だけは出席していました。浪人中は麻雀と酒の日々をおくり、仲間でバンドを組み、ヤマハポピュラーソングコンテストに出たこともありました。従って、医学部に合格するのに次郎は三浪、私は二浪しました。

福岡大学医学部に次郎が入学することになり、次郎の父上から「酒井君、次郎を頼む。」と言われ、私の隣のアパートへ住むことになり、再び麻雀と酒の日々が始まりました。救いは次郎が準硬式野球部に入り、私はゴルフ部で少し汗を流す事が出来た事でした。野球部とラグビー部、ゴルフ部は仲良く、試合を応援

に行き、よく部活後に飲みに行きました。ゴルフ部はオープンコンペを開催していたので、野球部の人たちも参加していました。その後、次郎もゴルフ部に入り、春と夏の合宿に参加していました。合宿初日は3ホールでつぶれていましたが…。1年違いで大学に入学したのに、なぜか常に同級生で、留年も一緒にして、卒業も一緒でした。

卒業してからは、仕事が忙しく一緒に遊ぶ機会が減り、同窓会などでたまに会うだけになりました。最後に次郎に会ったのは、令和元年9月に福岡大学病院へ入院している時、もうすぐ退院するという電話があり、お見舞いに行き、いろんな話をしました。「山歩きはいいぞ。お前もやったらどうだ。」と書いていたが、一緒に山歩き出来ずに令和3年3月20日に逝ってしまいました。

もう一度、一緒に飲みたかったな。合掌。



福岡大学心臓血管外科 教授 木村道生 先生を偲んで

白十字リハビリテーション病院 岩 隈 昭 夫 (8 回生)



2019年7月29日、恩師 木村道生先生(福岡大学心臓血管外科名誉教授)がご逝去されました(享年85歳)。

木村先生は、九州大学を卒業され旧福岡東病院(現在の福岡東医療センター)で心臓外科医として御活躍後に福岡大学心臓血管外科助教授として着任され、1993年に初代教授故浅尾学先生から2代目主任教授を引き継がれ就任された。

先生は医学教育にはとても熱心でおられ、看護学校の校長も併任されており、医学部生や看護学校の学生たちには絶大の人気を誇っておられた。また、手術のみならず学術的にも、心臓弁膜症に関する抗凝固能の研究や、手術で摘出した心臓弁膜の病理標本などに造詣が深く、多くの医局員が学位指導を始め学会発表や論文作成を指導していただいた。

また、退官直前には御自身の心臓外科医としての集大成だと言われ、心臓弁膜症に関する論文

(Commissural Dehiscence and Pannus Formation of Porcine Heart Valve Bioprotheses Artificial Organs 27(8): 706-13) を御自分で執筆発表された。

先生の教授就任期間は10年であったが、この間の3年半小生は医局長として仕事をさせていただいた。小生も大学医局在籍時は心臓弁膜症を中心に診療を行ってきた事、また先生の御子息(長男)とは小学校ならびに高校の同級であったご縁もあり、先生から常は優しく時に厳しく御指導をいただくとともに、先生御自身の医師としての豊富な経験談などをよく話していただいた。

先生は60歳で教授に就任され、以後も活動的で何事にも熱意をお持ちになり職務を全うされた。今、小生もその歳となったが、今後も先生の教えを胸に、熱意を持ち続けて今後の医師人生を送って行きたいと思う。木村先生、大変お世話になりました。ご冥福を心よりお祈りいたします。



福岡大学医学部同窓会諸表

令和2年度収入支出決算

区分	科 目	R2 年度予算	R2 年度決算	R1 決算予算比較	R2 決 算 内 訳
収 入	繰 越 金	12,163,322	12,163,322	0	
	会 費 収 入	30,340,000	41,064,622	▲ 10,724,622	入会費：7,641,989 学年会費：8,172,027 年会費：25,114,511 準年会費：136,095
	保険工物広告料	250,000	250,000	0	
	雑 収 入	20,000	6,538	13,462	ネクタイ1本、預金利子
	預り金収入	40,000	72,743	▲ 32,743	
	仮 入 金	0	0	0	
	合 計	42,813,322	53,557,225	▲ 10,743,903	
支 出	給 与	3,330,000	2,761,140	568,860	パート2名
	旅 費	2,400,000	1,288,870	1,111,130	役員旅費：491,950 評議員会：90,120 通勤旅費：175,000 その他：531,800
	事務用品費	400,000	386,693	13,307	
	印 刷 費	4,760,000	3,800,621	959,379	会報：3,657,748 封筒：136,770 その他：6,103
	通信運搬費	2,100,000	1,671,341	428,659	電信電話：66,874 会報：921,098 切手葉書：188,378 その他：494,991
	設備工事費	310,000	0	310,000	維持契約
	什器備品費	240,000	95,907	144,093	
	事 業 費	18,784,000	11,005,352	7,778,648	研究奨励賞：2,102,607 学生会員支援：1,132,840 国試対策費：617,725 支部活動費：2,712,030 支部祝儀：30,000 M1M5 白衣贈与：1,672,885 慶弔費：1,235,200 学会寄付：700,000 縁結び支援費：198,000 大学院生への援助：604,065
	会 議 費	2,000,000	2,332,354	▲ 332,354	理事会、会長懇話会：1,571,882 評議員会：456,588 各種会議他：303,884
	公 租 公 課	71,000	71,000	0	福岡県民税：21,000 福岡市民税：50,000
	雑 費	2,032,400	1,079,085	953,315	税理士報酬：33,000 渉外費：102,592 業務用グッズ：60,126 その他：883,367
	預り金支出	40,000	71,163	▲ 31,163	給与源泉徴収税
	引当金積立	5,000,000	0	5,000,000	
借入金返却	0	5,000,000	▲ 5,000,000		
予 備 費	1,345,922	0	1,345,922		
合 計	42,813,322	29,563,526	13,249,796		
	収 支 差 引	0	23,993,699	▲ 23,993,699	

令和2年度残金処分

残金額（収支差引額）	23,993,699 円
奨学金積立金積立	0 円
刊行物積立金積立	6,000,000 円
事業積立金積立	4,000,000 円
次年度繰越	13,993,699 円

令和2年度特別会計決算

	事業積立金	奨学金積立金	刊行物積立金	合 計
前年度より繰越	80,325,730	13,942,123	8,998,493	103,266,346
本年度増加額	5,050,026	392,500		5,442,526
本年度受取利息	439			
本年度減少額	▲ 1,103,595		▲ 986,654	▲ 2,090,249
本年度未決算額	84,272,600	14,334,623	8,011,839	106,619,062

令和2年度事業報告と令和3年度事業計画

項目	年度		令和3年度事業計画	
	令和2年度事業計画 予算(A)	令和2年度事業報告 実績(B)	令和3年度事業計画 予算(C)	C-A
① 会報の発行	5,106,350	4,578,846	3,784,350	▲ 1,322,000
② 総会の開催	600,000	0	600,000	0
③ 支部活動援助	2,000,000	2,712,030	2,000,000	0
④ 研究奨励賞	2,000,000	2,102,607	2,000,000	0
⑤ 在外研究援助	2,000,000	0	2,000,000	0
⑥ 学生会員支援	3,600,000	1,132,840	3,600,000	0
⑦ 白衣贈与	2,000,000	1,672,885	2,000,000	0
⑧ 国試対策費	2,000,000	617,725	2,000,000	0
⑨ 支部祝儀贈与	230,000	30,000	230,000	0
⑩ 学生行事援助	400,000	0	400,000	0
⑪ 学会寄付	1,500,000	700,000	1,500,000	0
⑫ 慶弔贈与	300,000	1,235,200	300,000	0
⑬ グッズ作製	0	0	0	0
⑭ 会員名簿発行	0	0	6,000,000	6,000,000
⑮ パニックマニュアル発行	837,000	986,489	0	▲ 837,000
⑯ 奨学金貸与	0	0	0	0
⑰ 縁結び	500,000	198,000	500,000	0
⑱ 保険コンサルティング	30,000	0	30,000	0
⑲ ホームページ	24,000		24,000	0
⑳ 大学院生援助	600,000	604,065	600,000	0
合計	23,727,350	16,570,687	27,568,350	3,841,000

令和3年度収入支出予算

区分	科目	R2 予算	R3 予算	R2年度予算摘要	R2予算 - R23
入	繰越金	12,163,322	13,993,699		▲ 1,830,377
	会費収入	30,340,000	30,440,000	入会費:49,580×110人×0.80≒4,360,000 学年会費:9,797×550人×0.88≒4,740,000 年会費:9,797×3,270人×0.66≒21,200,000 準年会費:4,797×34人×0.86≒140,000	▲ 100,000
	保険コンサルティング	250,000	250,000		0
	雑収入	20,000	20,000		0
	預り金収入	40,000	40,000		0
	積立金繰入				0
	仮受金				0
合計	42,813,322	44,743,699		▲ 1,930,377.0	
支	給与	3,330,000	3,330,000	パート1名、短期パート1名	▲ 3,330,000
	旅費	2,400,000	2,400,000	役員旅費:600,000 評議員会:600,000 私大連絡会:500,000 通勤費:200,000円 その他:500,000	0
	事務用品費	400,000	400,000		0
	印刷費	4,760,000	3,760,000	会報:3,100,000 封筒:500,000 その他:160,000	1,000,000
	通信運搬費	2,100,000	2,000,000	電信電話:100,000 会報:1,100,000 切手葉書代:300,000 その他:500,000	100,000
	設備工事費	310,000	400,000	維持契約費	▲ 90,000
	什器備品費	240,000	240,000		0
	事業費	18,784,000	18,884,000	総会費:600,000 研究奨励賞:2,000,000 在外研修援助金:2,000,000 学生会員支援費:3,600,000 国試対策費:2,000,000 学生行事援助費:400,000 支部活動費:2,100,000 支部祝儀:230,000 M1,M5 白衣贈与費:2,000,000 大学院生援助:600,000 慶弔費:300,000 学会寄付:1,500,000 縁結び (WEBサイトサーバー費含む):500,000 保険コンサルティング:30,000 WEBサイトサーバー費:24,000 事業予備費:1,000,000	▲ 100,000
	会議費	2,000,000	2,300,000	理事会・会長懇話会:700,000 評議員会:800,000 各種委員会:300,000 その他:500,000	▲ 300,000
	租税公課	71,000	81,000	法人県市民税:71,000 収入印紙:10,000	▲ 10,000
	雑費	2,032,400	2,033,000	税理士報酬:33,000 渉外費:500,000 慶弔費:500,000 その他:1,000,000	▲ 600
	預り金支出	40,000	40,000		0
	引当金積立		6,000,000		▲ 6,000,000
借入金返却	5,000,000			5,000,000	
予備費	1,345,922	2,875,699		▲ 1,529,777	
合計	42,813,322	44,743,699		▲ 5,260,377	
収支差引	-	-		0	

医局長・医長名簿 (○内の数字は福大医学部卒業回)
(令和3年10月現在)

	医局長	病棟医長	外来医長
[福岡大学病院]			
腫瘍・血液・感染症内科	佐々木 秀法	中島 勇太 ③①	茂木 愛 ②⑤
内分泌・糖尿病内科	高士 祐一	高橋 弘幸	牟田 芳実 ③④
循環器内科	志賀 悠平 ②⑥	権藤 公樹	末松 保憲
消化器内科	石橋 英樹 ②③	久能 宣昭 ③②	石田 祐介
呼吸器内科	井形 文保 ③④	井上 博之	井形 文保 ③④
腎臓・膠原病内科	伊藤 健二 ②⑤	冷牟田 浩人	安野 哲彦 ②④
血液浄化療法センター		安野 哲彦 ②④	
脳神経内科	藤岡 伸助 ②⑥	三嶋 崇靖 ③①	合馬 慎二 ②③
精神神経科	飯田 仁志 ③②	畑 中 聡 仁	大串 祐馬
〃 (ディケア)			田口 公之
小児科	藤田 貴子 ②②	坂口 崇	後藤 綾子
消化器外科	塩飽 洋生 ②⑥	島岡 秀樹	榎 研二 ②④
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	宮原 聡	阿部 創世 ③③	上田 雄一郎
整形外科	萩尾 友宣	田中 潤	西尾 淳 ①⑧
形成外科	岡本 理沙	西 建剛	小柳 俊彰
脳神経外科	野中 将 ①⑥	天本 宇昭	小林 広昌 ③②
心臓血管外科	林田 好生 ②⑩	寺谷 裕充 ③①	桑原 豪 ②⑦
皮膚科	柴山 慶継 ②⑦	清水 裕毅 ③⑥	佐藤 絵美 ③⑩
泌尿器外科	中村 信之 ①⑩	宮崎 健 ③④	岡部 雄
産婦人科	倉員 正光	深川 怜史 ③② (産科)	倉員 正光
〃		宮原 大輔 ②⑩ (婦人科)	吉川 賢一 ③⑥
眼科	原田 一宏	上野 智弘 ③④	小林 彩加
耳鼻咽喉科	妻鳥 敬一郎 ③②	打田 義則 ③④	宮崎 健
放射線科	浦川 博史 ①⑤	赤井 智春 ②⑦	坂本 桂子
麻酔科	楠本 剛	平井 規雅	柴田 志保 ②⑥
歯科口腔外科	瀬戸 美夏	喜多 涼介	吉野 綾
病理部	濱田 義浩 ①④		
臨床検査部	大久保 久美子		
輸血部	熊川 みどり		
救命救急センター	仲村 佳彦 ②⑦	森本 紳一 ③⑤	
総合周産期母子医療センター		瀬戸上 貴資 ②⑥ (新生児部門)	
		渋井 勇一 (3階南病棟)	
総合診療部	崎原 永志 ③③	加藤 禎史	崎原 永志 ③③
東洋医学診療部	坂本 篤彦		
[福岡大学筑紫病院]			
筑紫病院 (総医局長)	秋吉 祐一郎	(整形外科)	
循環器内科	池 周而 ②④	山本 智彦 ③⑩	矢野 雅也 ③②
内分泌・糖尿病内科	工藤 忠睦 ②③	阿部 一朗	小林 邦久
呼吸器内科	串間 尚子	木下 義晃	吉田 祐士 ③①
消化器内科	高津 典孝 ※	丸尾 達 ③⑩	安川 重義 ②⑨
小児科	井上 貴仁 ①⑤	熊谷 拓哉 ③⑦	道野 裕輔 ③④
外科	柴田 亮輔 ②⑥	坂本 良平	宮坂 義浩
呼吸器・乳腺外科	吉田 康浩 ②④	小野 周子 ④⑩	吉田 康浩 ②④
整形外科	秋吉 祐一郎	柴田 光史	蓑川 創 ③⑩
脳神経外科	井上 律郎 ②⑨	新居 浩平 ②④	坂本 王哉 ②⑧
泌尿器科	平 浩志 ①⑤	平 浩志 ①⑤	宮島 茂郎 ②②
眼科	海津 嘉弘	海津 嘉弘	鈴木 脩司 ③⑦
耳鼻いんこう科	佐藤 晋 ③⑩	佐藤 晋 ③⑩	速水 菜帆 ③⑨
放射線科	山本 良太郎 ②②		
救急科	松尾 邦浩 ⑧		
麻酔科	若崎 るみ枝		
病理部	原岡 誠司		

※印は循環器内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科の代表医長

教育職員人事（講師以上）

（○内の数字は福大医学部卒業回）〔令和 3.4.2～令和 3.10.1〕

区分	所属	資格	氏名	発令日	摘要
退職	整形外科	講師	小林 知弘	3. 4.30	
	小児科	准教授	野村 優子 ②	3. 9.30	
	筑紫耳鼻いんこう科	准教授	澤津橋 基宏	3. 9.30	
	理学	講師	沼田 朋大	3. 9.30	
採用	呼吸器内科	講師（4-7）	平野 涼介	3. 9.30	
	小児科	講師	八ッ賀 秀一	3.10. 1	
昇格	呼吸器内科	講師（4-7）	海老 規之	3.10. 1	
	形成外科	教授	高木 誠司	3.10. 1	
	スポーツ科学部	教授	重森 裕 ④	3.10. 1	
	臓器移植医療センター	教授	白石 武史	3.10. 1	
	循環器内科	准教授	杉原 充 ④	3.10. 1	
	産婦人科	准教授	宮田 康平 ⑨	3.10. 1	
	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	准教授	吉永康 照 ⑪	3.10. 1	
	筑紫循環器内科	准教授	池 周而 ④	3.10. 1	
	消化器外科	講師	小島 大望 ⑥	3.10. 1	
	産婦人科	講師	深川 怜史 ⑩	3.10. 1	
	放射線医学	講師（4-7）	坂本 桂子	3.10. 1	
	総合周産期母子医療センター	講師（4-7）	井 槌 大介	3.10. 1	
	循環器内科	講師（4-7）	権 藤 公樹	3.10. 1	
	総合診療部	講師（4-7）	武岡 宏明 ⑤	3.10. 1	
	整形外科	講師（4-7）	萩尾 友宣	3.10. 1	
筑紫泌尿器科	講師（4-7）	宮島 茂郎 ②	3.10. 1		

《新型コロナウイルス感染症流行下での福岡大学医学部慰霊祭》

解剖実習に献体していただいた御霊に慰霊と感謝を捧げる福岡大学医学部慰霊祭が例年通り2021年10月16日ユウベル積善社福岡斎場で行われました。

ただし、本会場に参列したのは医学部2年生の代表者だけで、残りの2年生は、10月12日にRI大講堂にて三密状態を避けながら焼香がおごそかに行われました。



編 集 後 記

2021年9月30日にCOVID-19の緊急事態宣言が解除され、この原稿を執筆している現在も感染者は減少し続けています。医療従事者の多くは、これが終結ではないことを自覚していますが、つかの間の開放感と共にこの1年半の混迷を振り返る人は多いと思います。

さて、本年7月3日、ソラリア西鉄ホテルにおいて、第39・40回合同の烏帽子会総会が開催されました。この日は5月の感染ピークと8月のピークのちょうど谷間にあたり、運も味方してくれました。主管学年の皆様には、開催か否かの難しい決断を下されたご苦労と、オンライン参加を始めとする各種感染対策への取り組みに感謝申し上げます。ところでオンライン参加は今や各種会合のルーティンとなりました。学術集会では配信機材の費用負担や、討論がしにくいなどのデメリットもありますが、参加者総数が増え、会費の納入も例年を上回った団体が多いようです。さらに新入会員の獲得に結びついた例もあります。COVID-19の動向に関わらず、今後もオンライン参加という選択肢は残るかもしれません。オンライン開催に感染対策以上の意義を創出できる可能性があるからです。烏帽子会総会でも、プログラムの工夫や双方向通信の実現などでライブ感やグルーブ感が生まれ、従来の開催方式に劣らない新しい総会が実現するかもしれません。その現実性はさておき、総会の企画・運営にとどまらず、烏帽子会の活動全般が時代の要求に即したのものになるためには、幅広い世代の運営参画が必要です。いかなる時代も、烏帽子会が医学部の支援を目的とした最良の機能集団であり続けるために、読者の皆様の声をお寄せ下さい。

文責 坂田 俊文（11回生）



「福岡大学病院新本館(仮称)」 2023年10月竣工予定



福岡大学病院新本館(仮称)の建築に係る工事が始まりました。
ここから本学を臨む景色が大好きでした。桜の季節から新緑へ、深緑からせみの大合唱、
桜の葉の色づき、季節の進みに合わせて景色が少しずつ変わってきました。



令和3年 5月10日撮影



令和3年 6月10日撮影



令和3年 7月10日撮影



プールがなくなっています

令和3年 8月10日撮影



令和3年 9月10日撮影



本土地鎮祭

令和3年 10月11日撮影



医学部新館 5階から撮影



告知

第41回福岡大学医学部同窓会 烏帽子会総会

開催日 2022年7月2日(土)
4:00PM~8:00PM
会場 ソラリア西鉄ホテルにて

烏帽子会会報第71号

発行日 令和3年12月1日
発行人 高木 忠博
編集人 小玉 正太

発行所 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会
電話:092-865-6353(直通)
092-801-1011(代表) 内線[3032]
FAX:092-865-9484
E-mail:eboshi@eboshikai.jp / maileboshi@gmail.com

印刷所 ロータリー印刷株式会社
福岡市中央区港2-8-9
電話:092-711-7741
FAX:092-711-7901